

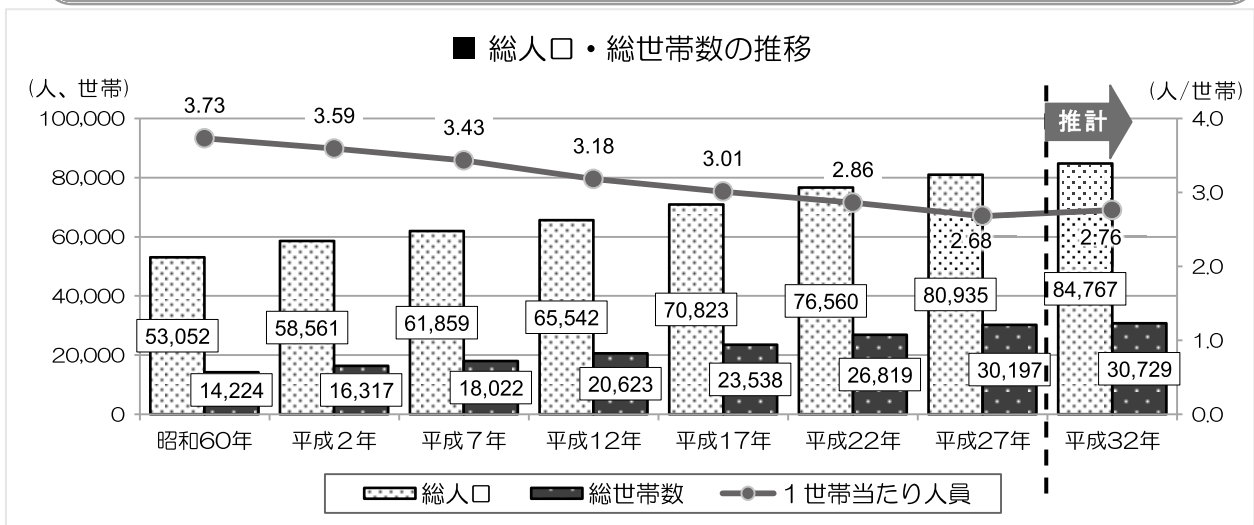
第2章 守山市の食をめぐる現状と課題

1 人口構造

(1) 市全体の人口・年齢3区分別人口の推移

●本市は近畿大都市圏のベッドタウンとして、人口は現在も増加傾向にあり、この10年で1万人を超える増加となっています。また、人口増加率は、県内市町の中で、平成12年～17年は栗東市に次いで第2位、平成17年～22年は第1位です。

●世帯数は人口以上の伸びを示していることから、1世帯当たりの人員は減少傾向にあり、平成17年時点の3.01人が平成27年9月末現在では2.68人となり、世帯規模の縮小が進んでいます。



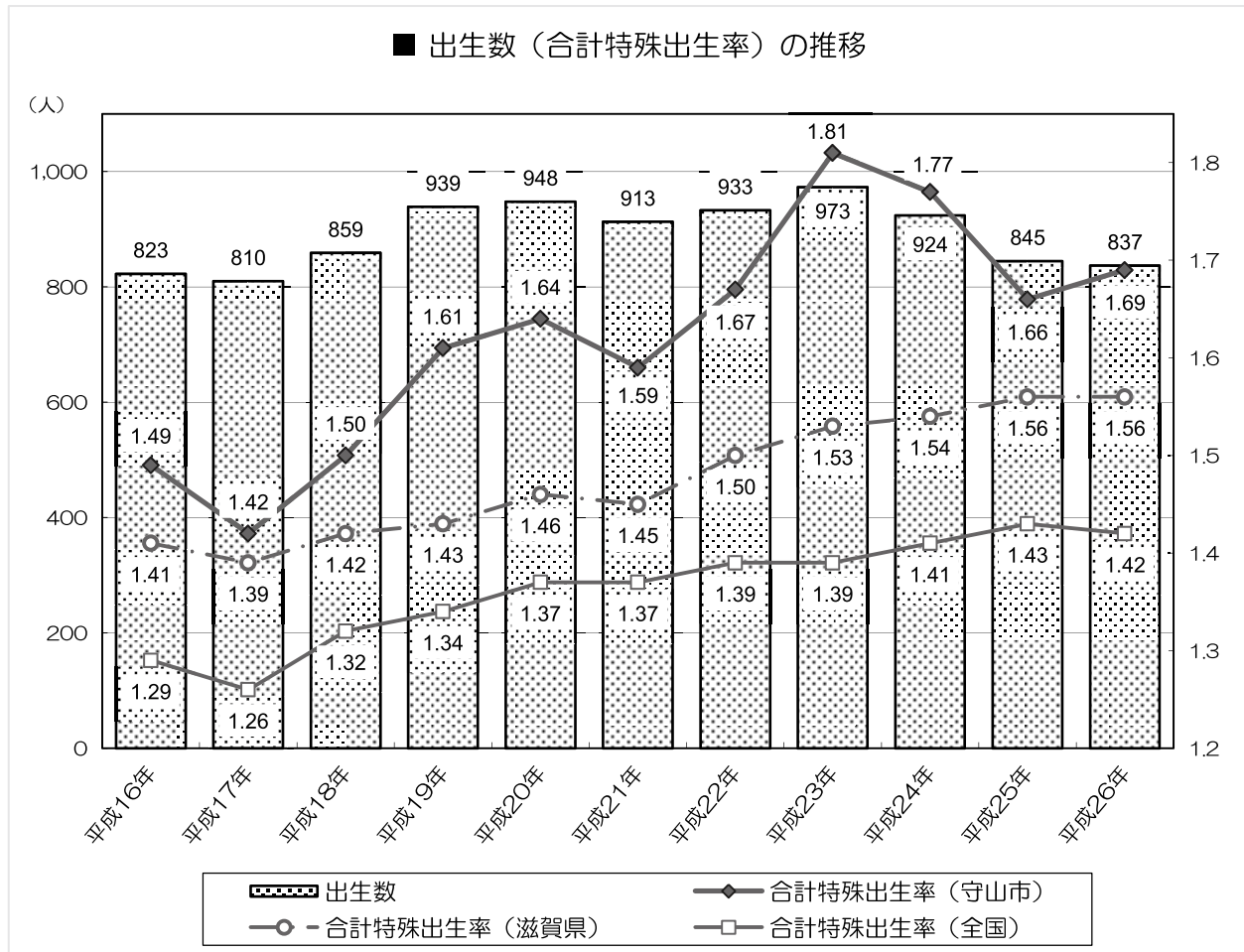
資料：平成22年度までは国勢調査（各年10月1日現在）、平成27年度は住民基本台帳（9月末現在、外国人含む）。推計値は「第5次守山市総合計画」より抜粋

■ 滋賀県市別国勢調査人口の推移

市名	人口(人)			増減率(%)	
	平成12年	平成17年	平成22年	平成12年～17年	平成17年～22年
守山市	65,542	70,823	76,560	8.06	8.10
大津市	309,793	323,719	337,634	4.50	4.30
彦根市	107,860	109,779	112,156	1.78	2.17
長浜市	123,862	124,498	124,131	0.51	△0.29
近江八幡市	80,669	80,610	81,738	△0.07	1.40
草津市	115,455	121,159	130,874	4.94	8.02
栗東市	54,856	59,869	63,655	9.14	6.32
甲賀市	92,484	93,853	92,704	1.48	△1.22
野洲市	48,326	49,486	49,955	2.40	0.95
湖南市	53,740	55,325	54,614	2.95	△1.29
高島市	55,451	53,950	52,486	△2.71	△2.71
東近江市	114,395	116,797	115,479	2.10	△1.13
米原市	41,251	41,009	40,060	△0.59	△2.31

(2) 出生の状況

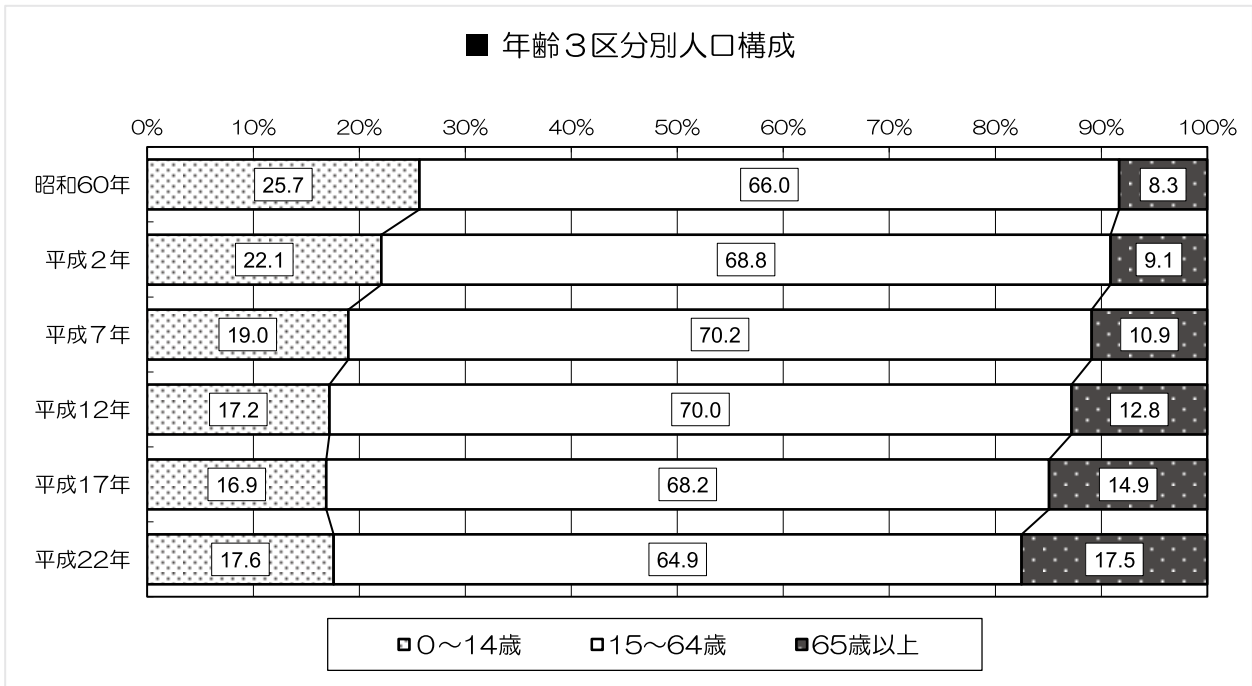
- 出生数は平成19年には900人を超え推移していましたが、平成25年度には800人台に減少しました。
- 合計特殊出生率（1人の女性が生涯に出産する子どもの数の平均）は、全国や滋賀県に比べて高い水準で推移しています。平成23年はこの10年で最も高い1.81となっています。



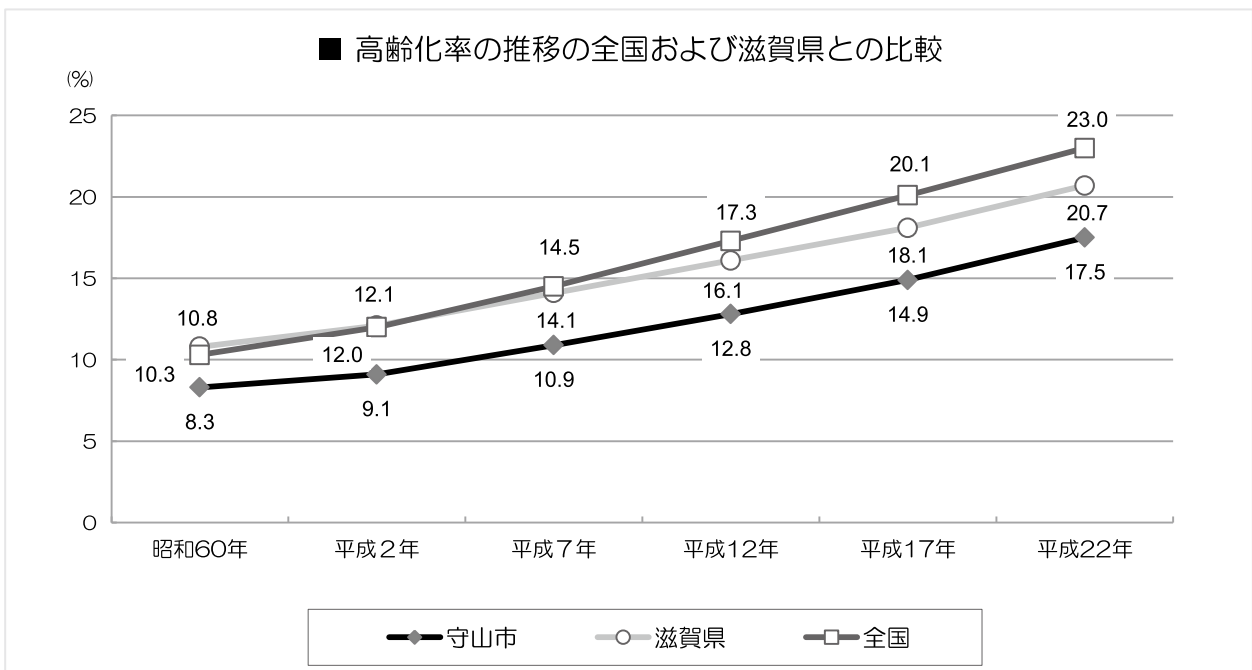
資料：南部健康福祉事務所事業年報、国の人口動態統計

(3) 年齢3区分別人口・高齢者人口の推移

- 本市においても高齢化が確実に進行し、平成22年の国勢調査では、0～14歳の年少人口比と65歳以上の高齢人口比（高齢化率）が同程度となっています。
- 高齢化率の推移は、全国よりも10年程遅く、滋賀県よりも7年程遅く進行しています。



資料：国勢調査（各年10月1日現在）



資料：国勢調査（各年10月1日現在）

2 守山市の食育推進の現状

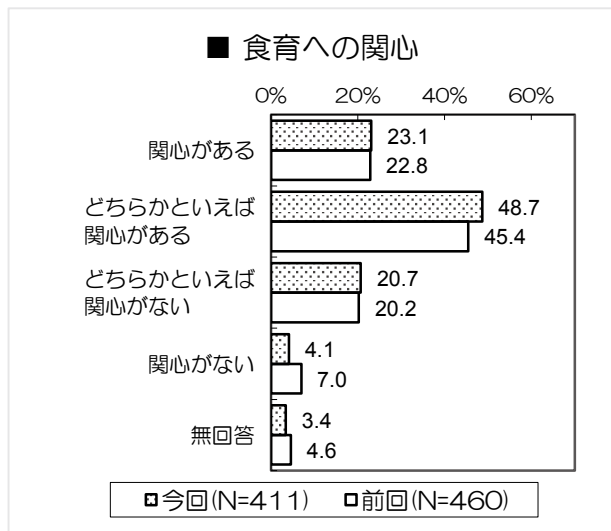
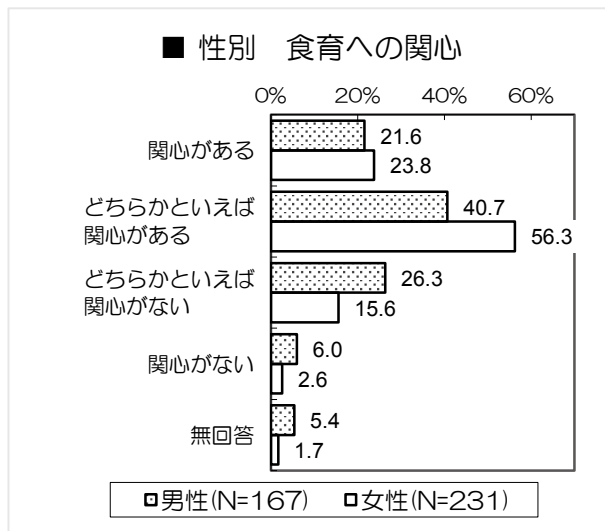
ここでは、平成 22 年 2 月および平成 26 年 10 月に実施した「食育推進に関する市民アンケート調査」の比較を中心に、食育の関心と前計画の 4 つの基本目標に沿って市の特徴をみます。

■ 食育推進に関する市民アンケート調査

項目	平成 21 年度調査	平成 26 年度調査
調査対象者	15 歳以上の市民（中学生以下の方は除く）	
調査期間	平成 22 年 2 月	平成 26 年 10 月
調査方法	調査票による本人記入方式（本人が記入できない場合は家族などによる） 配布・回収ともに郵送	
回収状況	配布数 1,000 有効回収数：460 有効回収率：46.0%	配布数 1,000 有効回収数：411 有効回収率：41.1%

(1) 食育への関心に関する現状

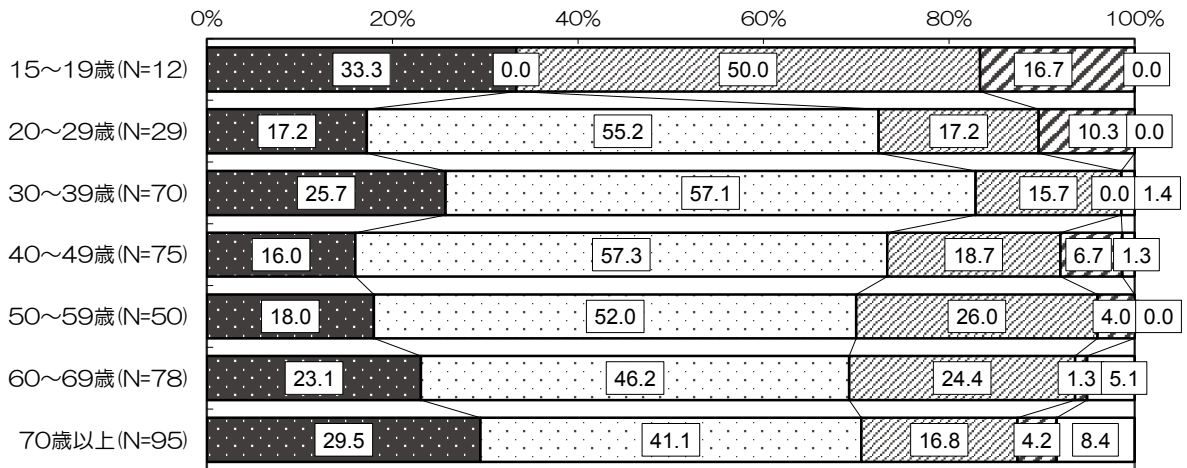
ア 食育への関心



食育に関心がある人（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は 71.8%と、前回（68.2%）より 3.6 ポイント増加しています。

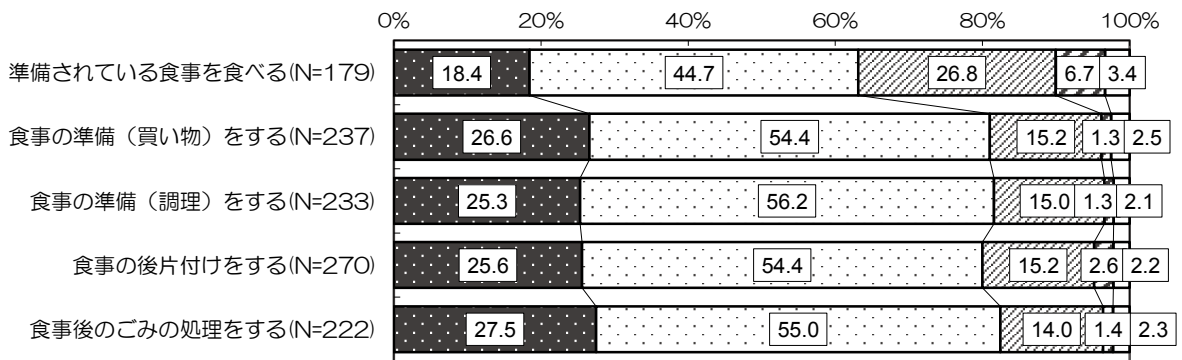
性別でみると、関心がある人は女性（80.1%）が男性（62.3%）に比べて多く、女性の関心が高くなっています。

■ 年齢別 食育への関心



■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ▨ どちらかといえば関心がない ▩ 関心がない □ 無回答

■ 食事での役割別 食育への関心

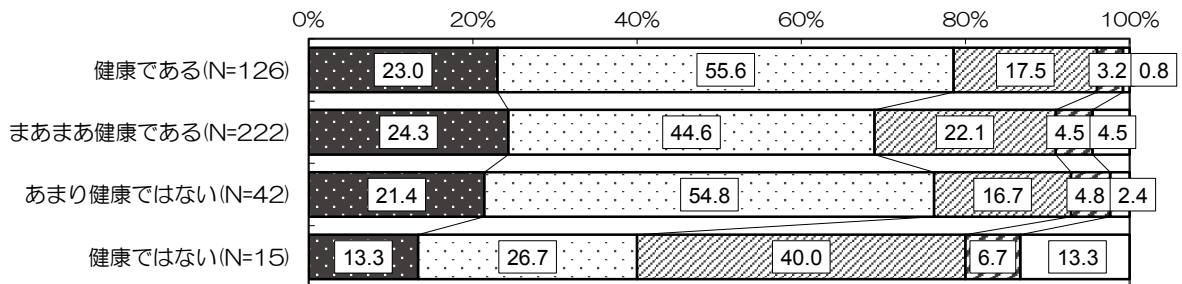


■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ▨ どちらかといえば関心がない ▩ 関心がない □ 無回答

年齢別にみると、関心がある人は20歳以上では7割程度なのに対して、15~19歳では33.3%と、特に少なくなっており、若年層の関心が低くなっています。

また、食事での役割別でみると、他の役割に比べ、準備されている食事を食べる人で食育に関心がない人の割合が高くなっています。

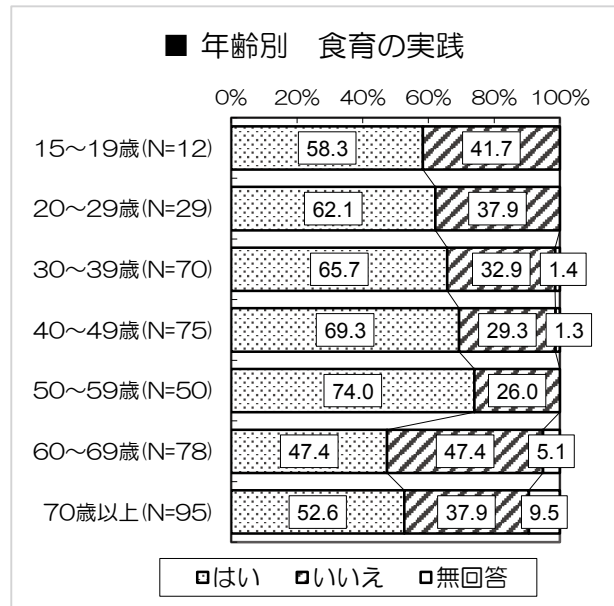
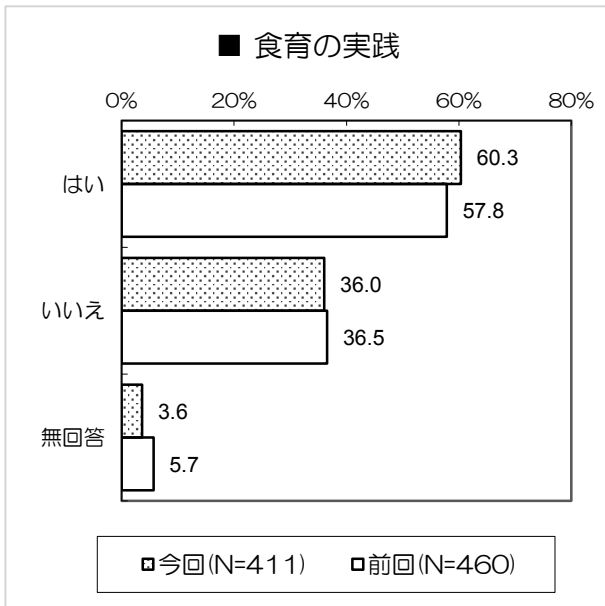
■ 健康状態別 食育への関心



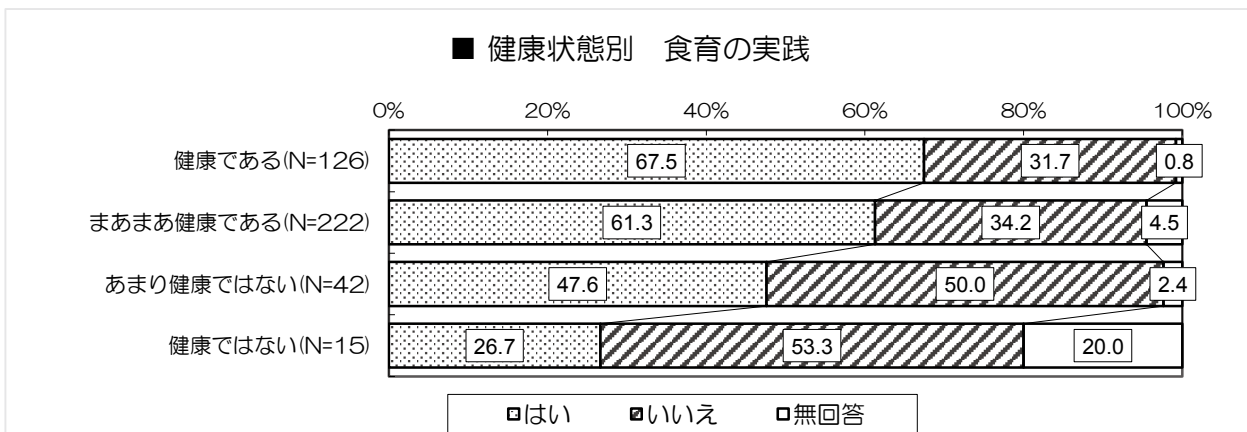
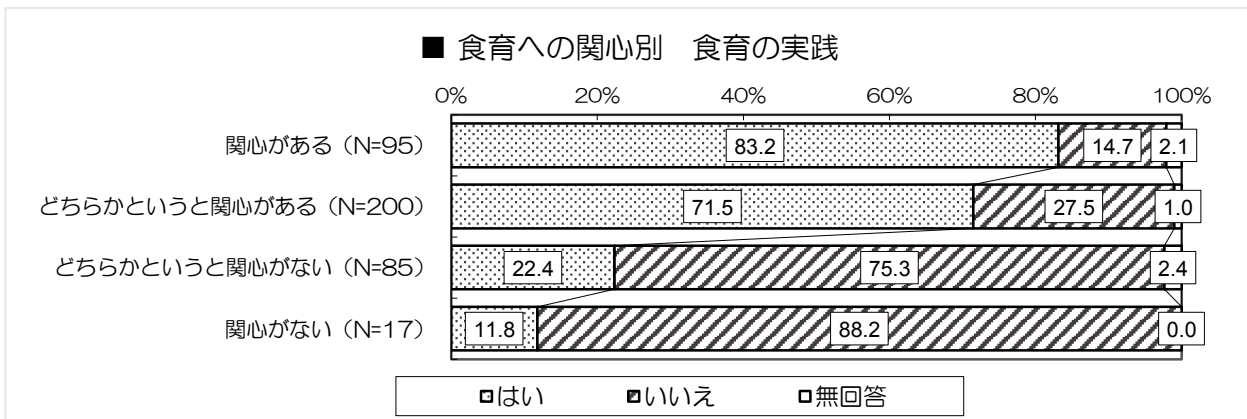
■ 関心がある □ どちらかといえば関心がある ▨ どちらかといえば関心がない ▩ 関心がない □ 無回答

健康状態別でみると、「健康ではない」と感じている人では関心がある人が4割と、他に比べて3割ほど少なく、関心が低くなっています。

イ 食育の実践

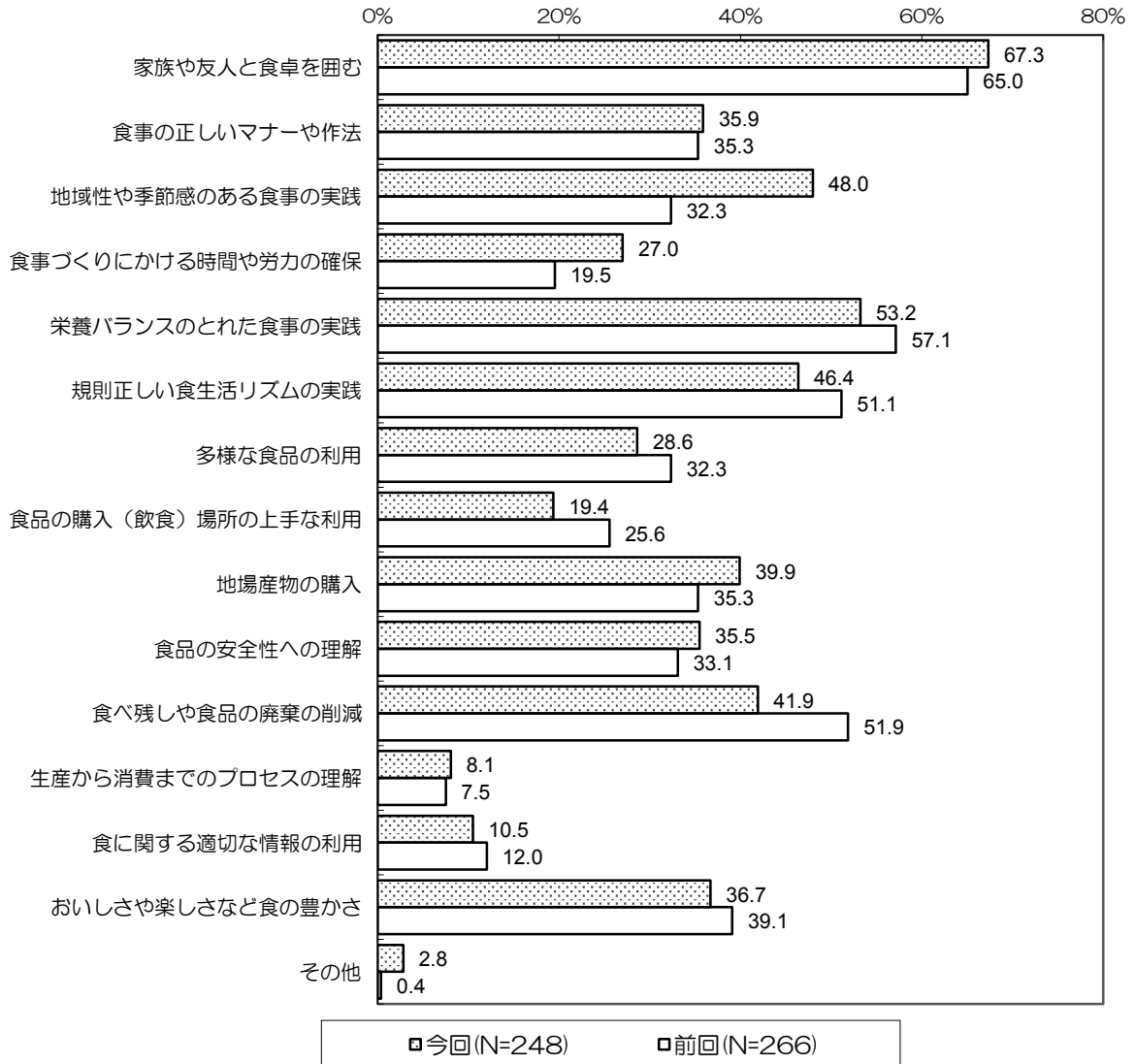


食育の実践をしている人は60.3%で、前回(57.8%)と同程度の約6割が食育を何らかの形で実践しています。
 年齢別にみると、50歳代までは年齢が高いほど「はい」が多くなっていますが、60歳以上では大きく落ち込んでいます。



食育の関心別でみると、食育への関心が高いほど「はい」が多くなっています。
また、健康状態別でみると、健康な人ほど「はい」が多くなっています。

■ 実践している食育（複数回答可）



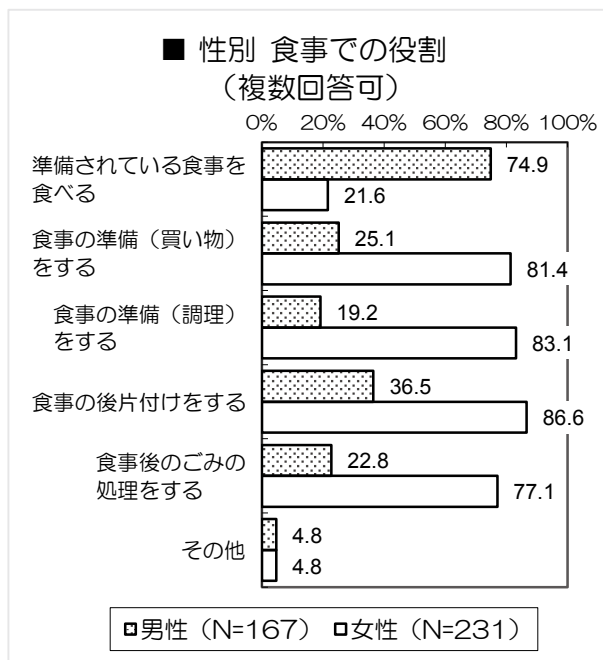
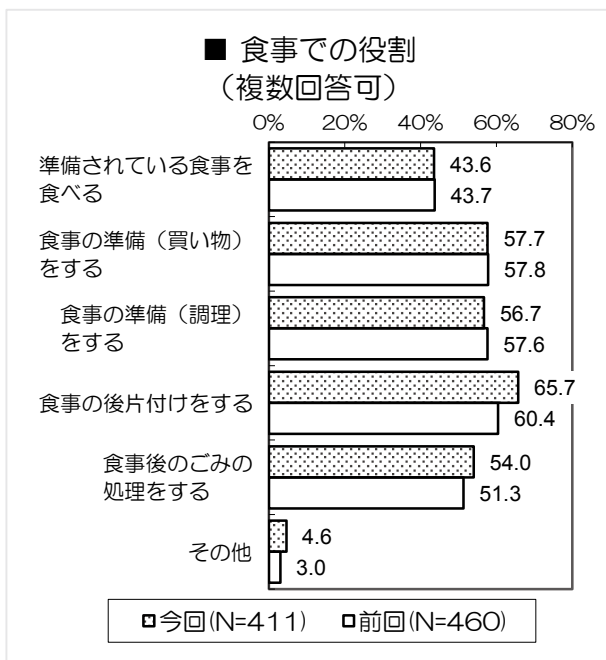
実践している食育の内容をみると、「家族や友人と食卓を囲む」が67.3%で最も多く、次いで「栄養バランスのとれた食事の実践」（53.2%）、「地域性や季節感のある食事の実践」（48.0%）などとなっています。前回と比較すると、「地域性や季節感のある食事の実践」が前回（32.3%）より15.7ポイント増と大きく増加しています。最も減少した項目は「食べ残しや食品の廃棄の削減」で、前回（51.9%）より10.0ポイント減少しています。

(2) 基本目標ごとの現状

ア 食べることの大切さを学ぶ

① 体験を通じて、食のあり方を学ぶ

・食事での役割について

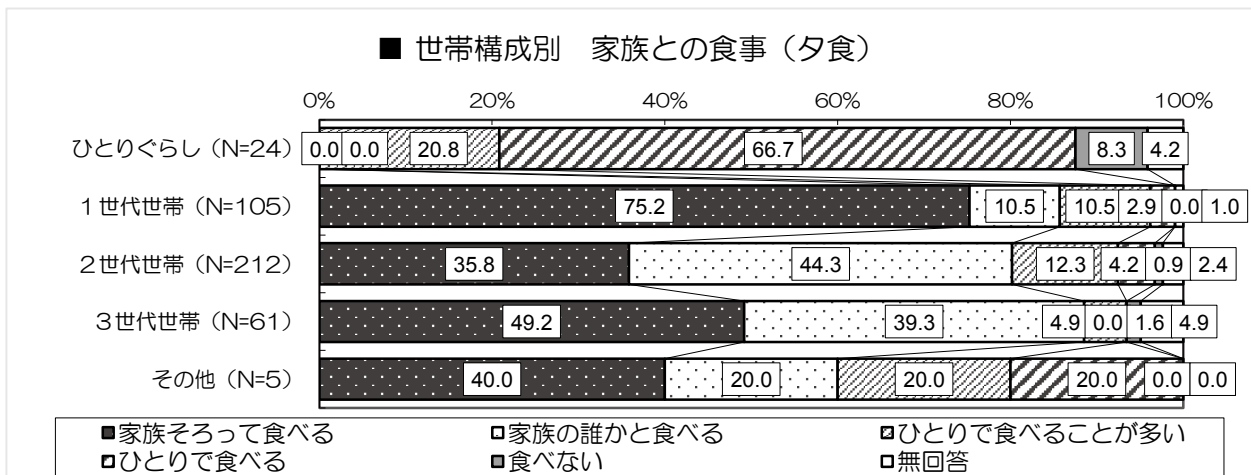
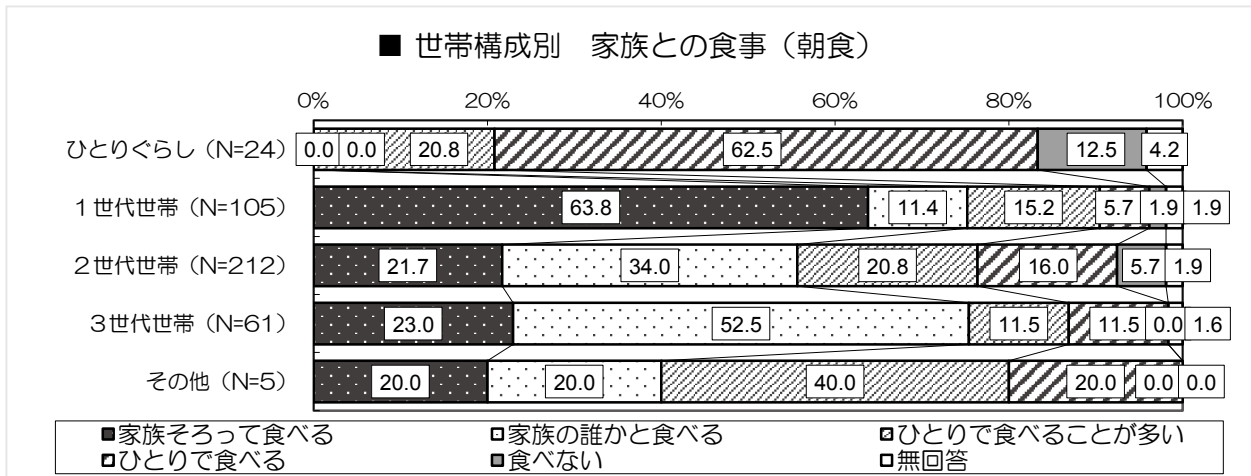
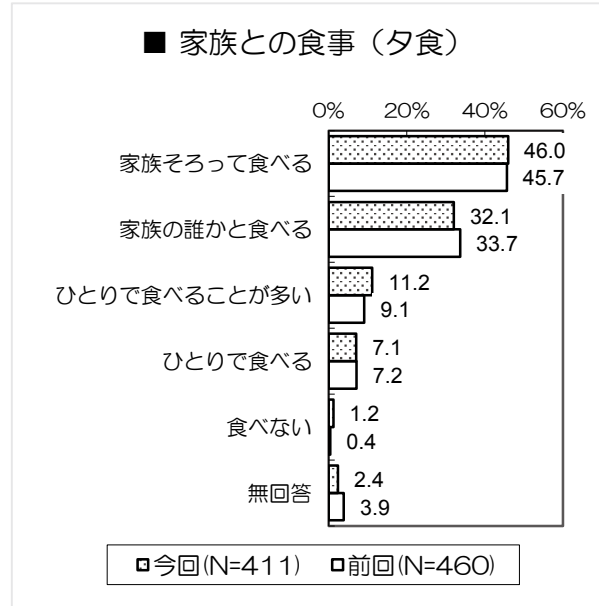
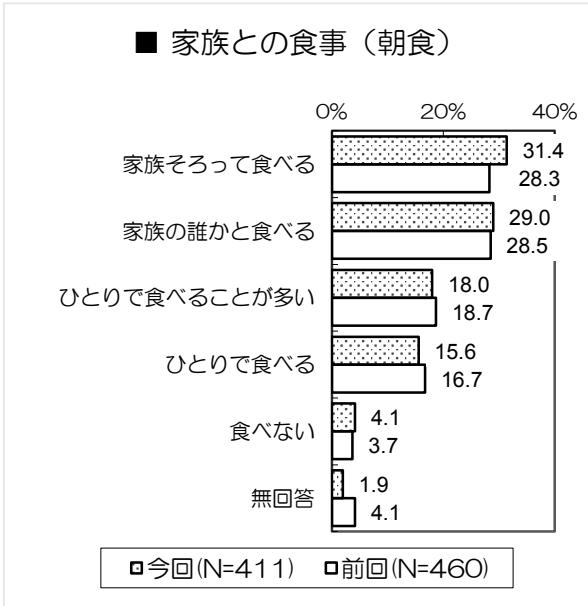


食事での役割をみると、「食事の後片付けをする」が65.7%で最も多く、次いで「食事の準備(買い物)をする」(57.7%)、「食事の準備(調理)をする」(56.7%)などとなっています。前回と比較すると、「食事の後片付けをする」が5.3ポイント増加しています。

性別にみると、男性では「準備されている食事を食べる」が74.9%で最も多く、次いで「食事の後片付けをする」(36.5%)となっています。女性では「食事の後片付けをする」が86.6%で最も多く、次いで「食事の準備(調理)をする」(83.1%)、「食事の準備(買い物)をする」(81.4%)などとなっています。男性は準備されている食事を食べる事が多く、食事の準備・片付けはほとんどが女性の役割という傾向になっています。

② 一家団らんなどによるコミュニケーションの大切さを学ぶ

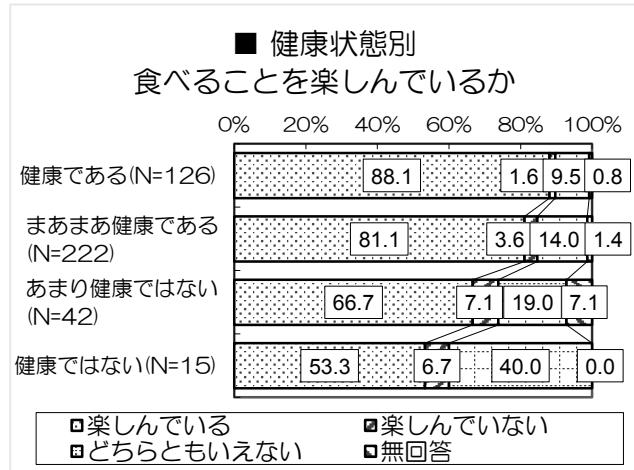
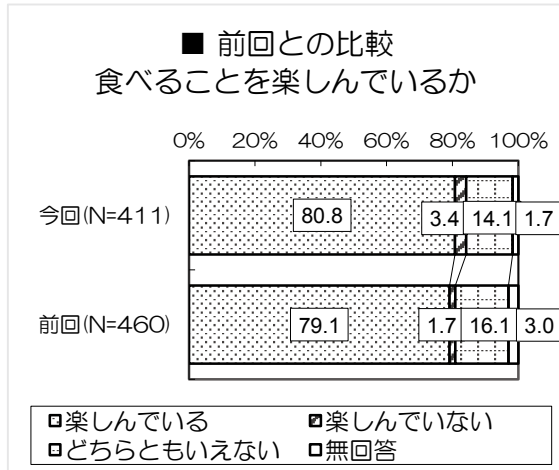
・家族との食事について



家族との食事についてみると、朝食、夕食ともに「家族そろって食べる」（31.4%、46.0%）が最も多く、次いで「家族の誰かと食べる」（29.0%、32.1%）となっており、朝食では6割、夕食では8割近くが家族と食事をしています。

前回と比較すると、夕食はほぼ変化がありませんが、朝食は家族と食事をする人がやや増加しています。

・ 食べることを楽しんでいるか



食べることを楽しんでいるかをみると、「楽しんでいる」は80.8%と8割以上を占めていますが、「楽しんでいない」が3.4%と前回(1.7%)に比べてわずかながら増加しています。

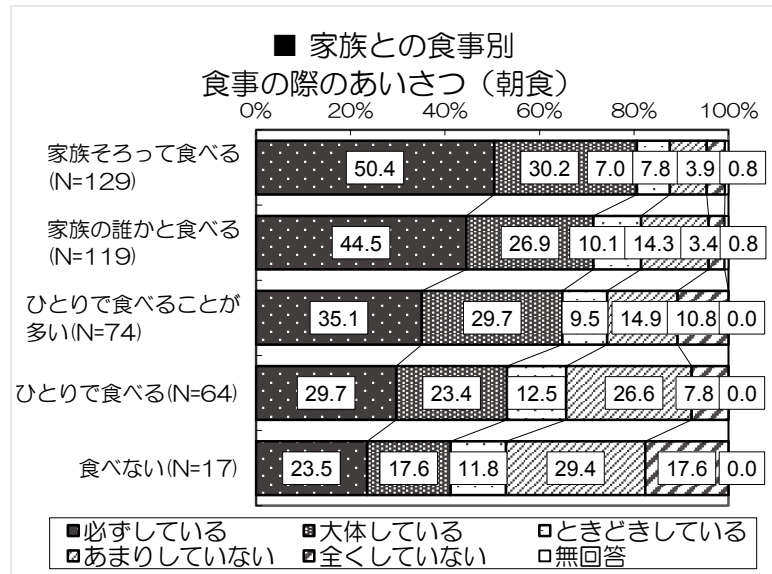
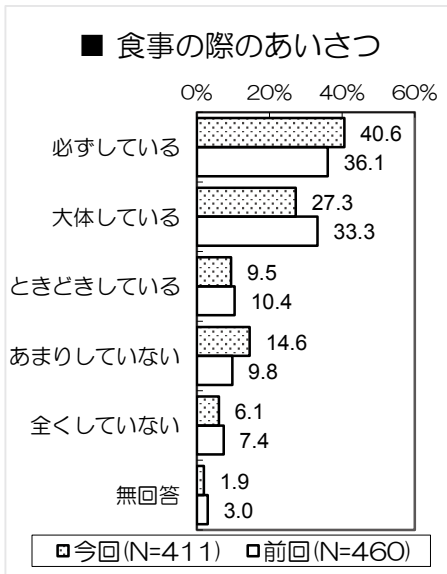
健康状態別でみると、健康な人ほど「楽しんでいる」が多くなっています。

③ 感謝の心を身に付ける

(食事マナーを含む)

(いただきます・ごちそうさま・ありがとう・もったいない)

・ 食事の際のあいさつについて

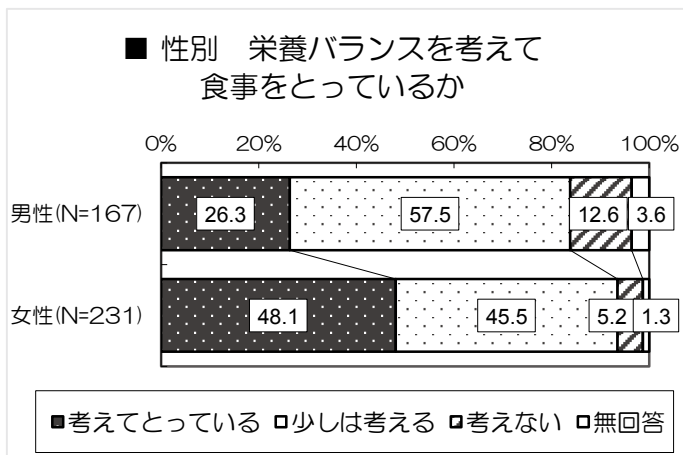
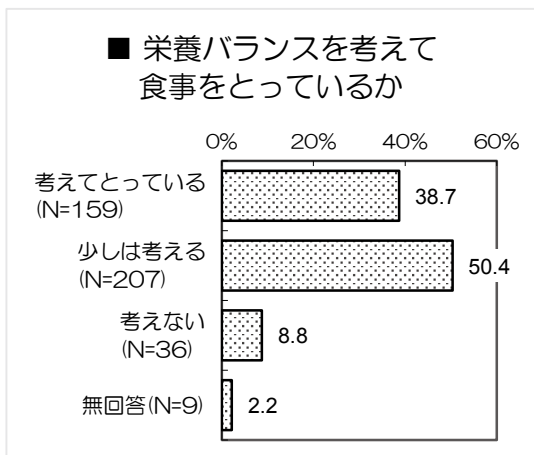


「必ずしている」が40.6%で最も多く、次いで「大体している」(27.3%)となっています。あいさつをしていない人(「あまりしていない」と「全くしていない」の合計)は20.7%で、前回(17.2%)よりも増加しています。

家族との食事状況別にみると、朝食・夕食ともに家族と食べている人ほどあいさつをする傾向がみられます。

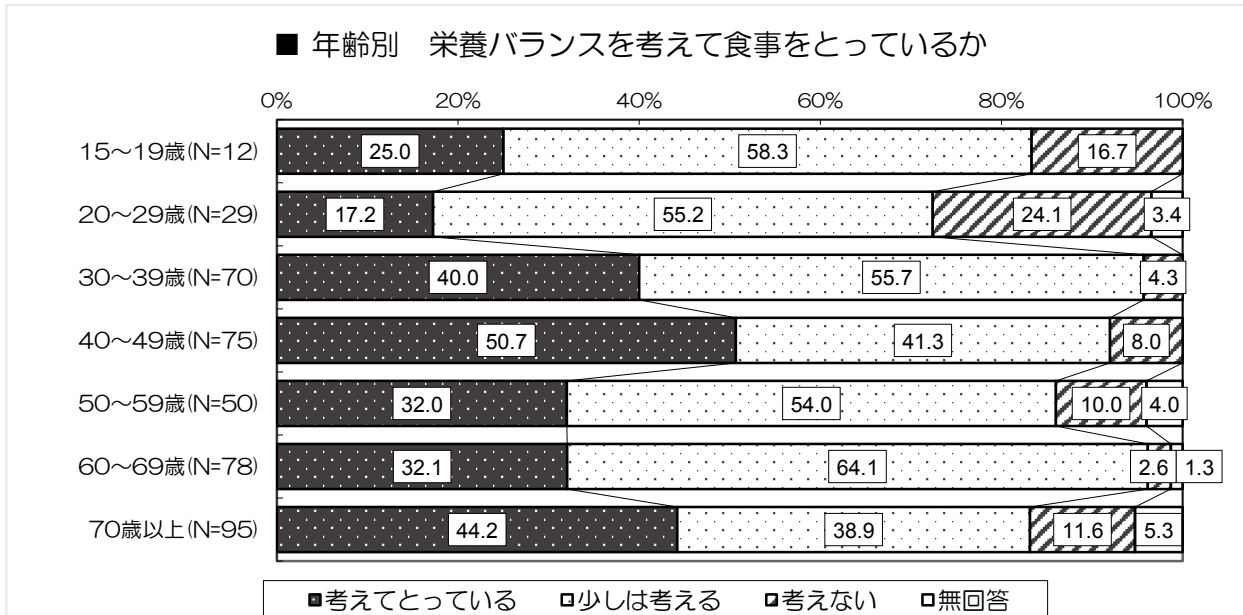
④ 自分に合った量・バランスを選択できる能力をつける
 (バランス食の目安教材の活用) (少量多品目)

・栄養バランスを考えた食事について



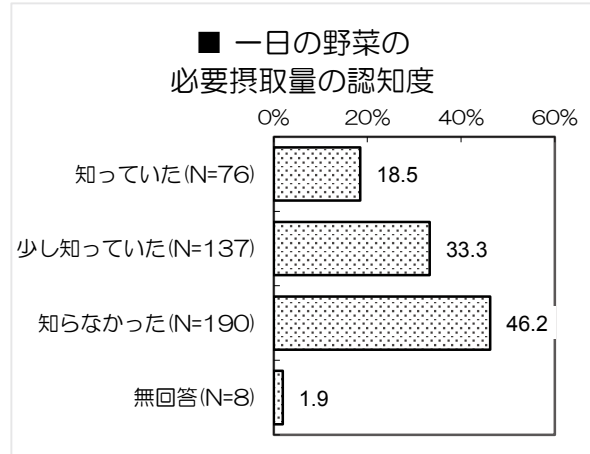
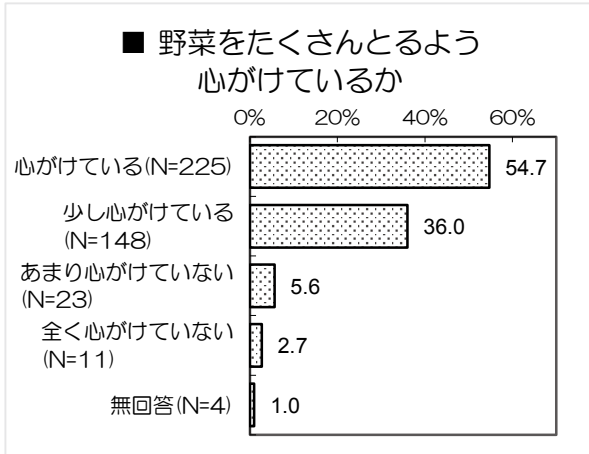
栄養バランスを考えて食事をとっている人（「考えてとっている」と「少しは考える」の合計）は89.1%で、9割近くを占めています。

性別にみると、「考えてとっている」は女性（48.1%）が男性（26.3%）に比べて多く、女性の方が栄養バランスを考えて食事をとっています。



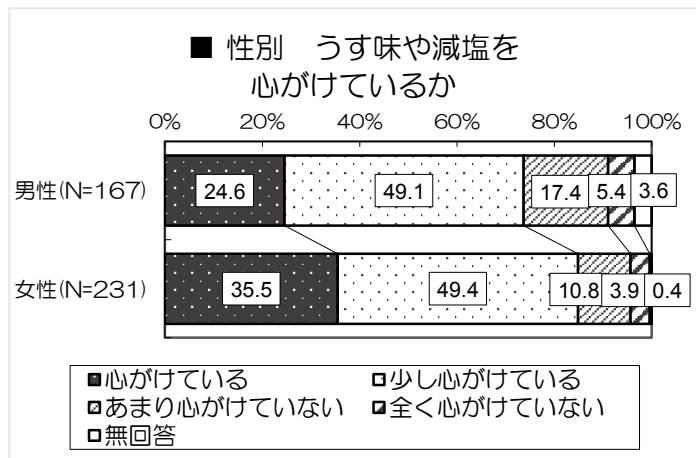
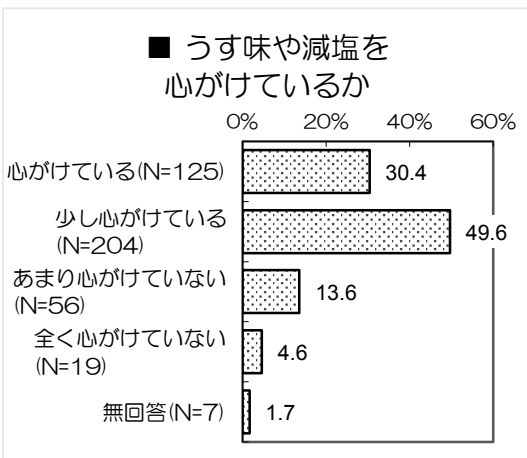
年齢別にみると、「考えない」が最も多いのは20~29歳（24.1%）で、次いで15~19歳（16.7%）となっており、若い世代で栄養バランスを考えていない人が多くなっています。

・野菜の摂取について



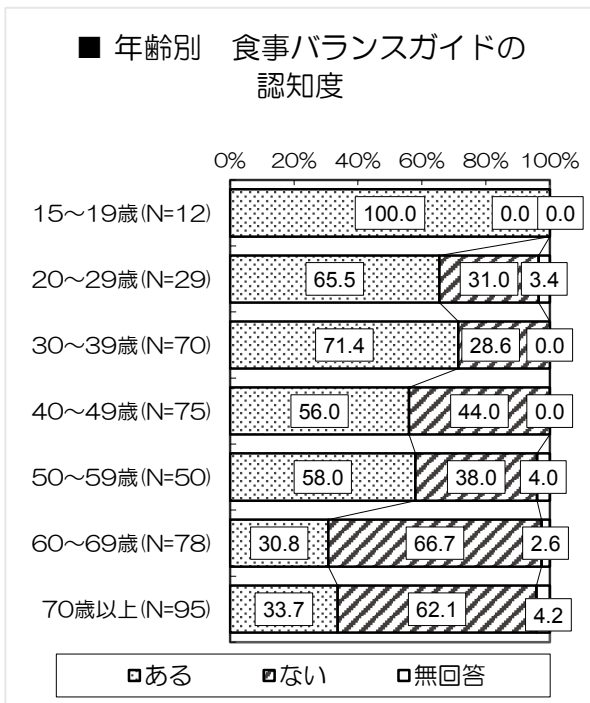
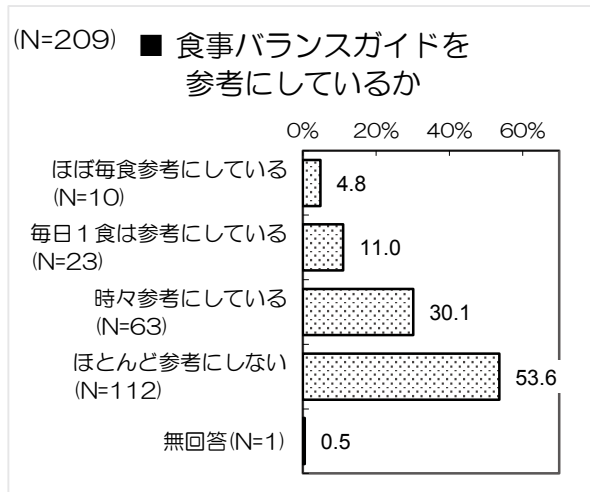
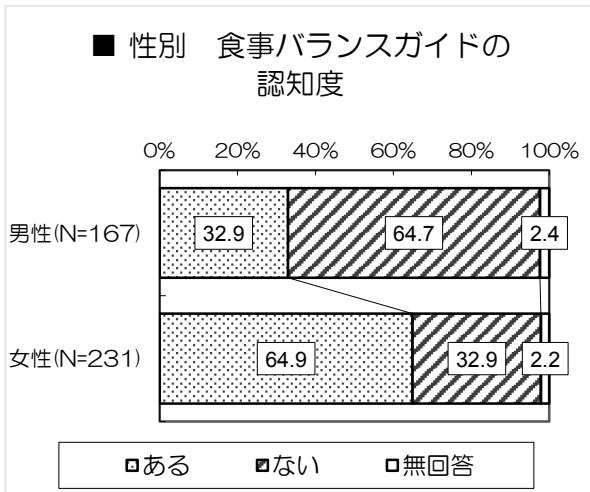
野菜をたくさんとるように心がけている人（「心がけている」と「少し心がけている」の合計）は90.7%で、約9割が野菜をたくさんとるように心がけています。
必要摂取量の認知度をみると、「知らなかった」が46.2%で最も多くなっています。「知っていた」と「少し知っていた」を合計すると51.8%で、ある程度知っている人は5割を超えています。

・うす味や減塩について



うす味や減塩を心がけている人（「心がけている」と「少し心がけている」の合計）は、8割を超えています。
性別にみると、心がけている人は、女性（84.9%）が男性（73.7%）に比べて多くなっています。

・食事バランスガイドについて

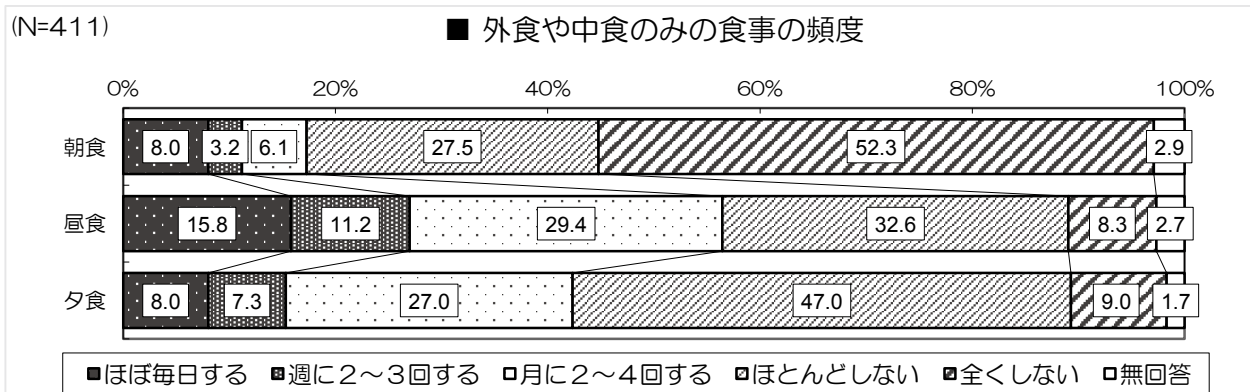


食事バランスガイドの認知度を性別にみると、「ある」は女性では64.9%と、男性(32.9%)のほぼ2倍となっており、女性の方が認知度は高くなっています。

年齢別にみると、年齢層が高いほど「ある」が少ない傾向にあり、60歳以上では「ある」は3割程度にとどまっています。

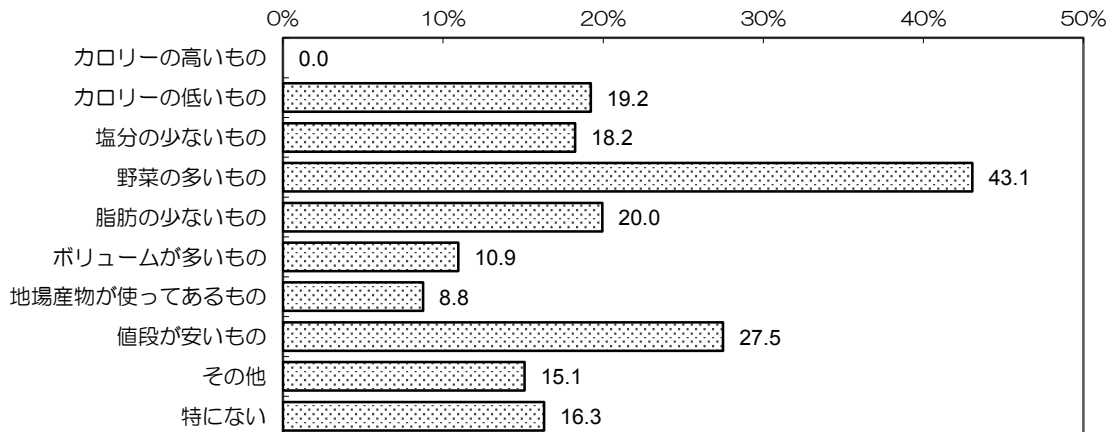
食事バランスガイドを見たことがある人について、食事バランスガイドを参考にしているかをみると、「ほとんど参考にしない」が53.6%で最も多く、次いで「時々参考にしている」(30.1%)となっており、あまり食事バランスガイドは参考にされていません。

・外食や中食*について



(N=411)

■ 外食・中食の際に留意する点（複数回答可）

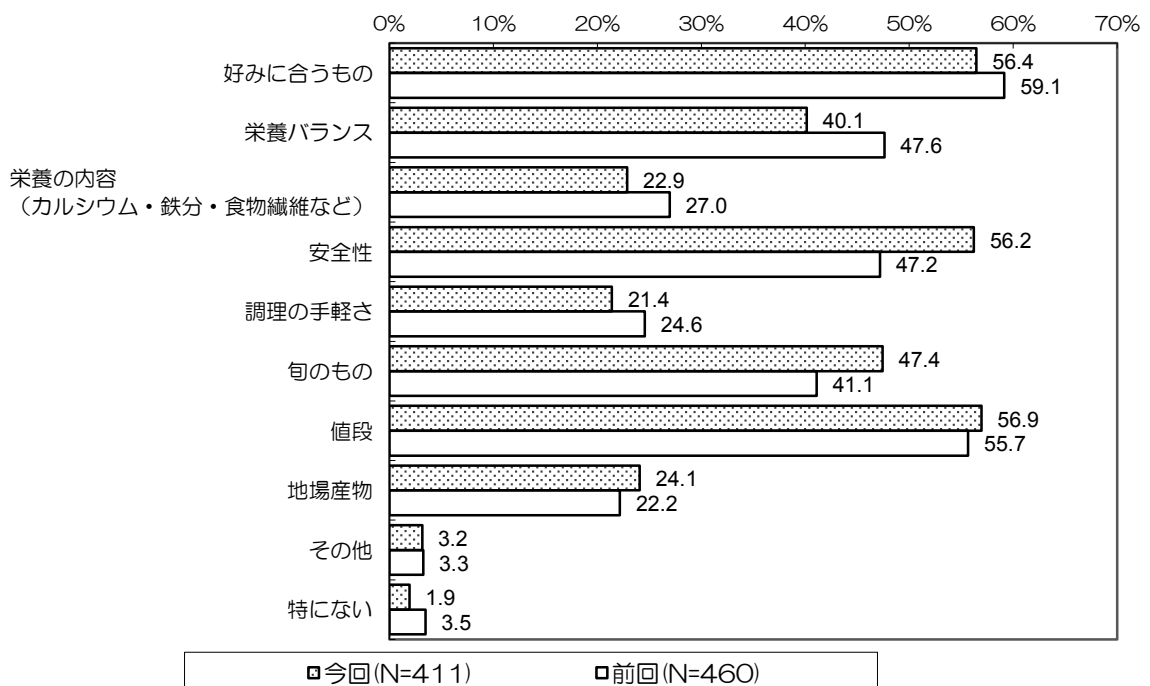


外食や中食のみの食事の頻度をみると、朝食では「全くしない」（52.3%）、昼食・夕食では「ほとんどしない」（32.6%、47.0%）がそれぞれ最も多くなっています。「全くしない」と「ほとんどしない」の合計は朝食では79.8%、昼食では40.9%、夕食では56.0%となっており、朝食では外食や中食のみの食事は少なくなっています。また、「ほぼ毎日する」は昼食で15.8%と1割を超えており、昼食では外食・中食のみの食事が比較的多くなっています。

外食・中食の際に留意する点を見ると、「その他」を除いて、「野菜の多いもの」が43.1%で最も多く、次いで「値段が安いもの」（27.5%）、「脂肪の少ないもの」（20.0%）などとなっています。

・ 食品や食材を選ぶ時の基準について

■ 食品や食材を選ぶ時の基準（複数回答可）



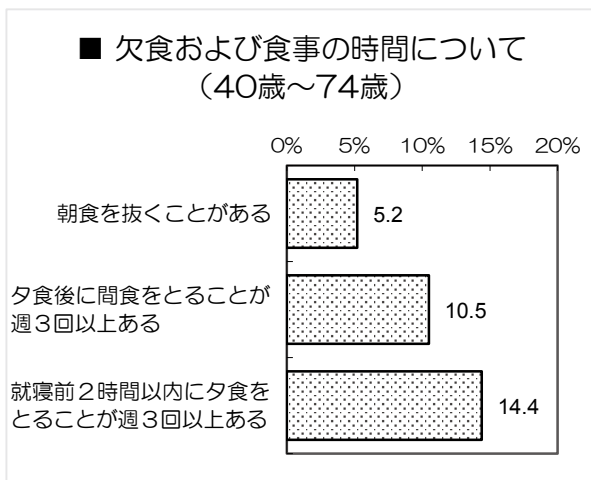
「値段」（56.9%）、「好みに合うもの」（56.4%）、「安全性」（56.2%）の3つがほぼ同程度で特に多くなっています。前回と比較すると、「安全性」（9.0ポイント増）や「旬のもの」（6.3ポイント増）が増加している一方、「栄養バランス」（7.5ポイント減）などは減少しています。

イ 早寝・早起き・朝ごはんを実践する

① 健康的な生活リズムを確立する

（排便習慣を含む）

・欠食*および食事の時間について

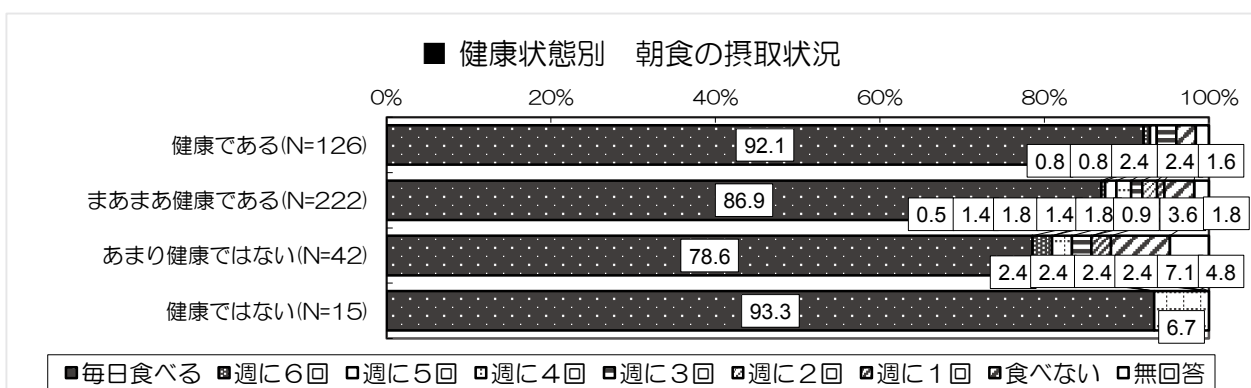
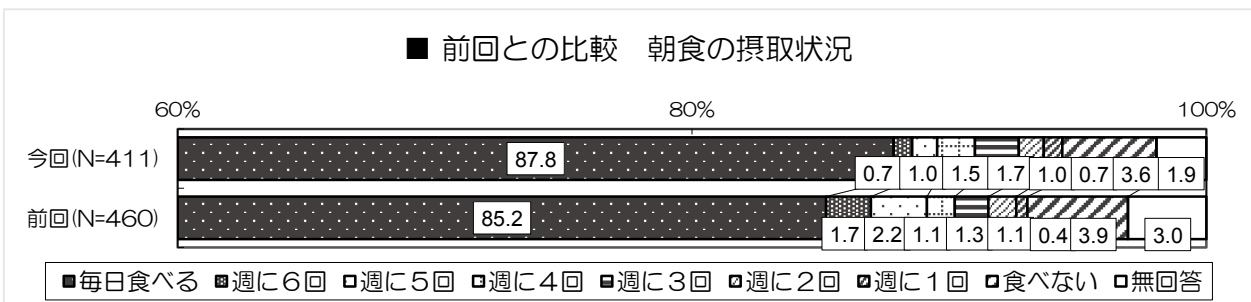


欠食および食事の時間についてみると、朝食の欠食（5.2%）以外にも、夕食後に間食をとることが週3回以上ある（10.5%）、就寝前2時間以内に夕食をとることが週3回以上ある（14.4%）といった生活リズムに問題を抱えた人がいることがわかります。

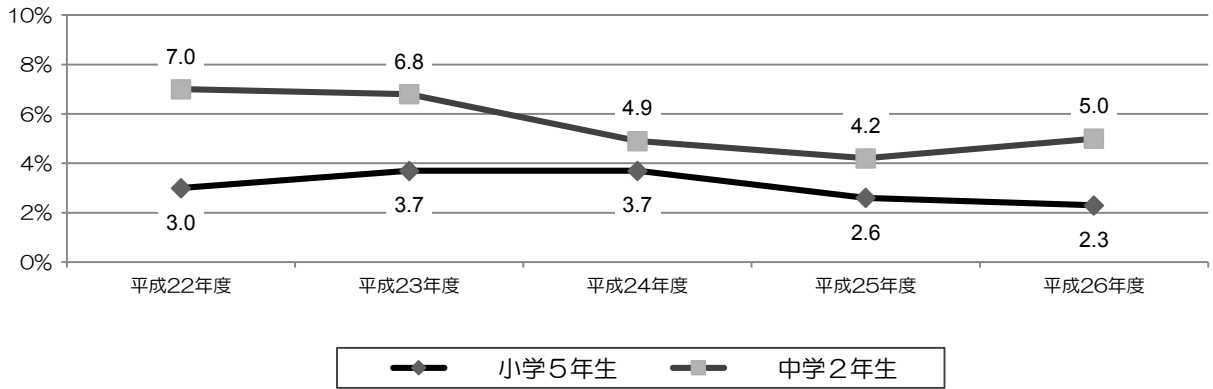
資料：KDB 帳票「地域の全体像の把握」（H26年度）

② 朝食の摂取を推進する

・朝食の摂取について

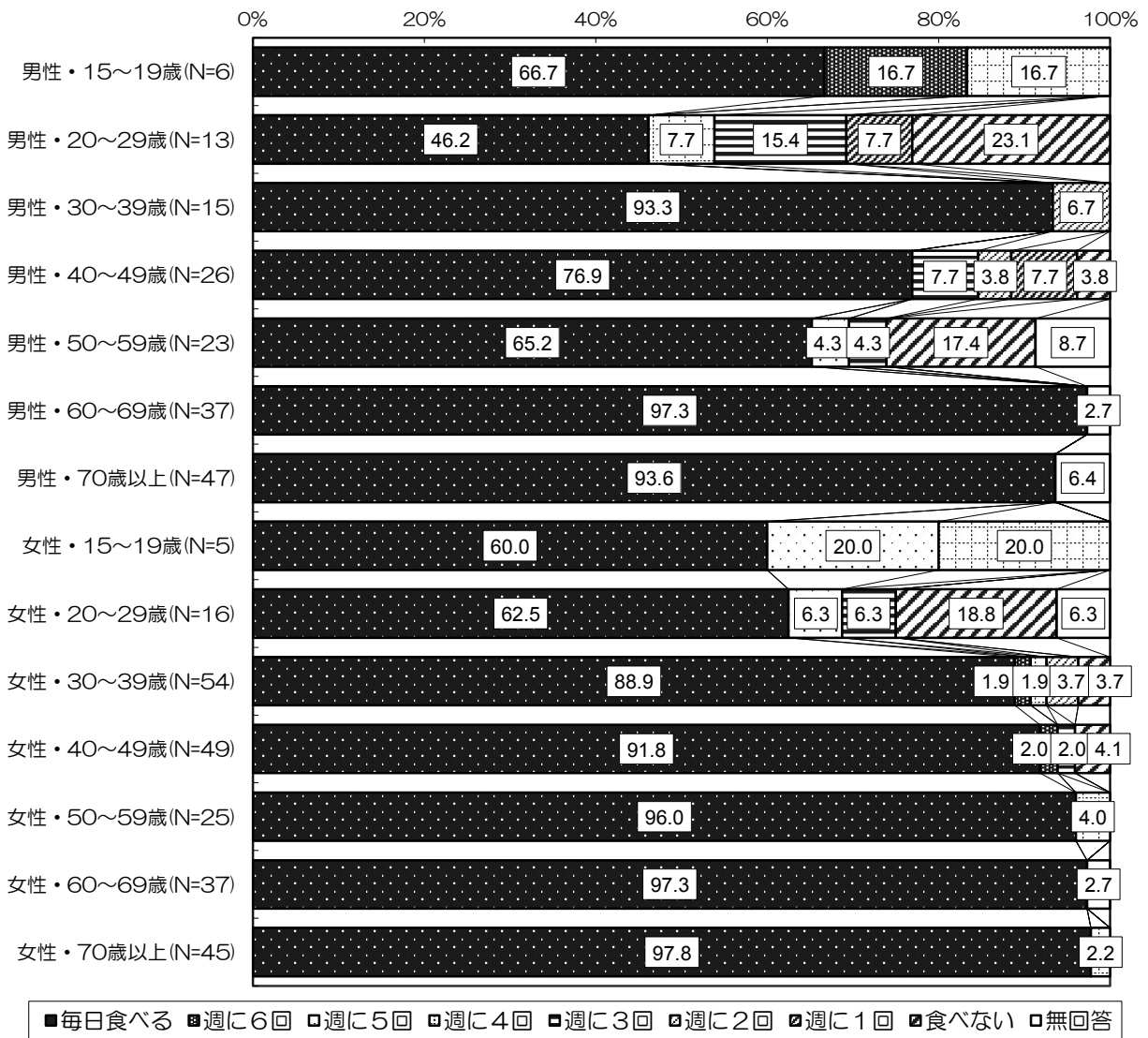


■ 朝食を欠食する小中学生の割合 (小学5年生・中学2年生)

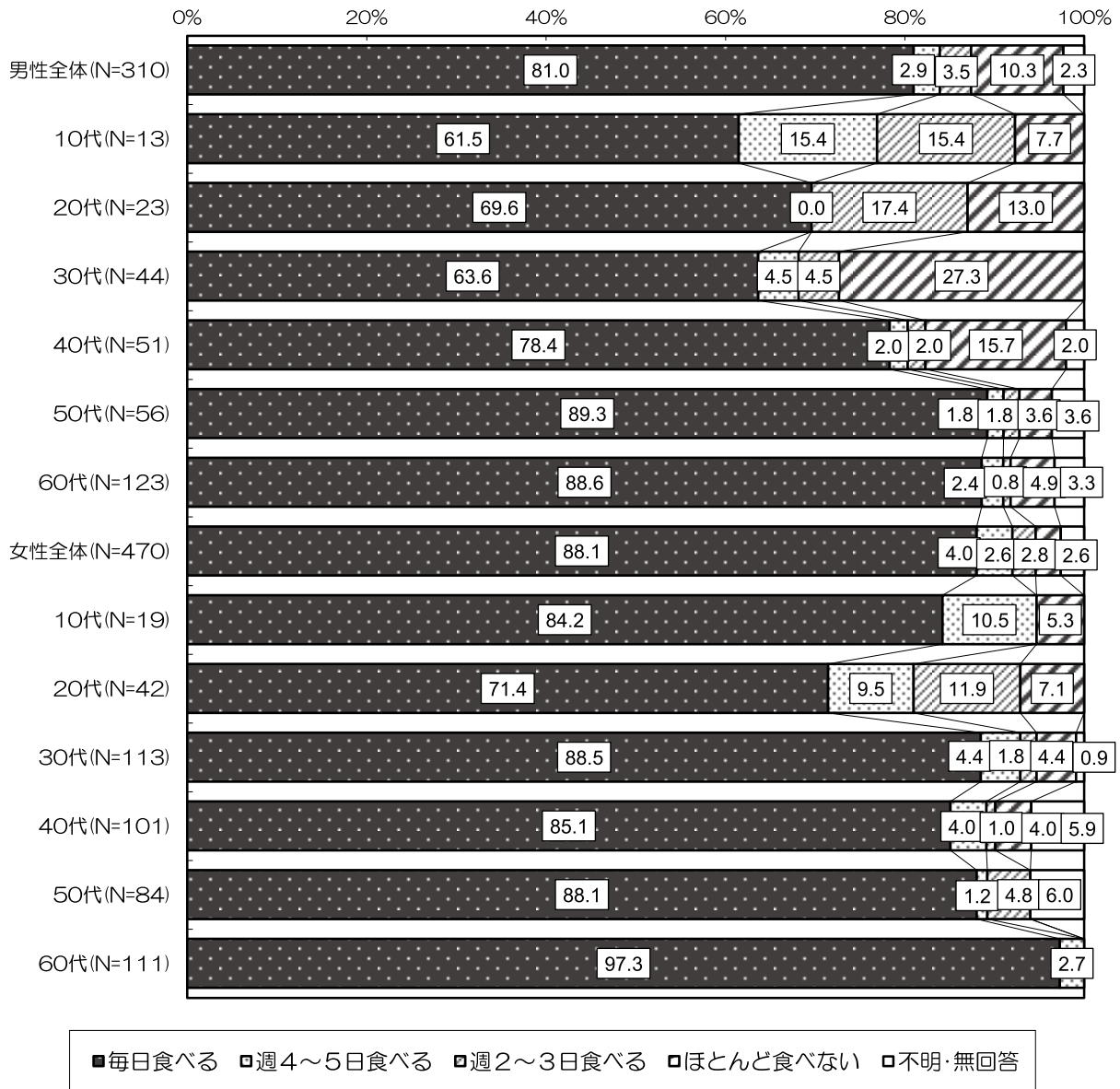


資料：朝食に関する状況調査

■ 性・年齢別 朝食の摂取状況



■ 性・年齢別 朝食の摂取状況
(平成23年度)



資料：健康もりやま21市民アンケート調査（平成23年度）

「毎日食べる」が87.8%で最も多く、8割以上を占めています。一方、「食べない」は3.6%となっています。前回と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。

健康状態別にみると、母数の少ない「健康ではない」を除いて、健康であるほど「毎日食べる」が多く、「食べない」が少ない傾向がみられます。

性・年齢別にみると、男性では「毎日食べる」は30~39歳と60歳以上では9割以上を占めていますが、20~29歳では46.2%と半数を下回っています。また、「食べない」は20~29歳で23.1%と突出して高くなっています。女性では「毎日食べる」は年齢層が低いほど少なくなっており、30歳未満では6割程度と、30歳以上（おむね9割以上）に比べて少なくなっています。

ウ 家庭や地域で食文化を語り継ぐ

① 日本食の良さを見直し、日本食の推進を図る

・和食*などの教室の実施

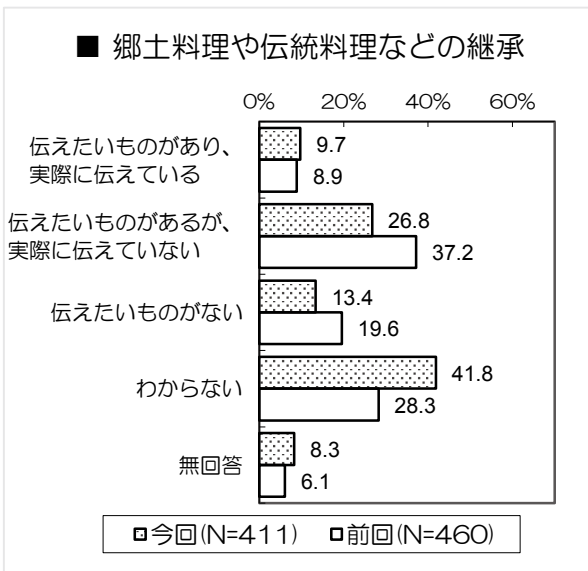
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
教室の種類	1	3	1	3
開催回数(延べ数)	1	3	2	4

資料：生涯学習課事業実績

和食などの教室の実施についてみると、多い年度では3種類の教室を年間延べ4回開催、少ない年度では1種類の教室を年間延べ1回開催しています。

② 郷土料理、伝統料理を継承する

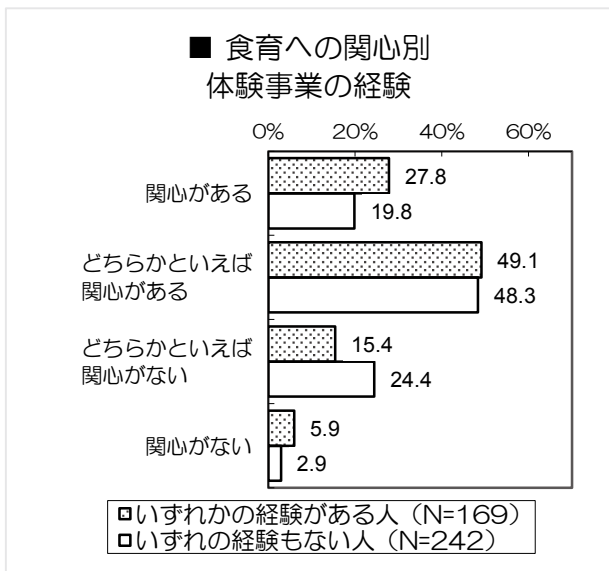
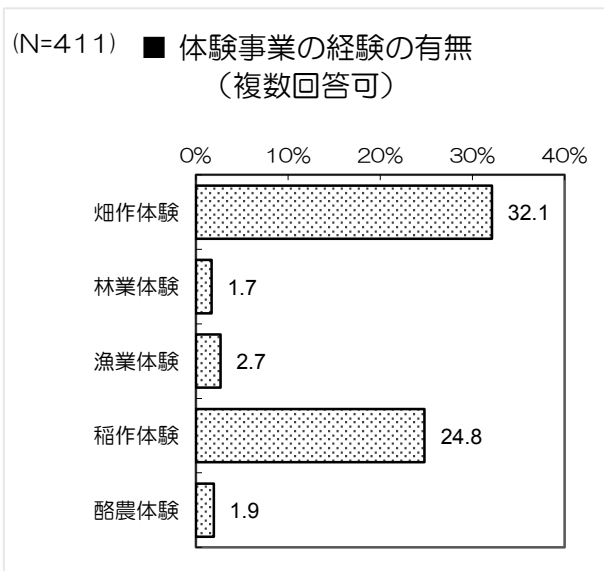
・郷土料理や伝統料理の伝承について



郷土料理や伝統料理などの伝承についてみると、「わからない」が41.8%で最も多く、次いで「伝えたいものがあるが、実際に伝えていない」(26.8%)となっています。伝えたいものがある人(「伝えたいものがあり、実際に伝えている」と「伝えたいものがあるが、実際に伝えていない」の合計)は36.5%で、前回(46.1%)より9.6ポイント減少しています。

③ 農業資源等の活用を推進する

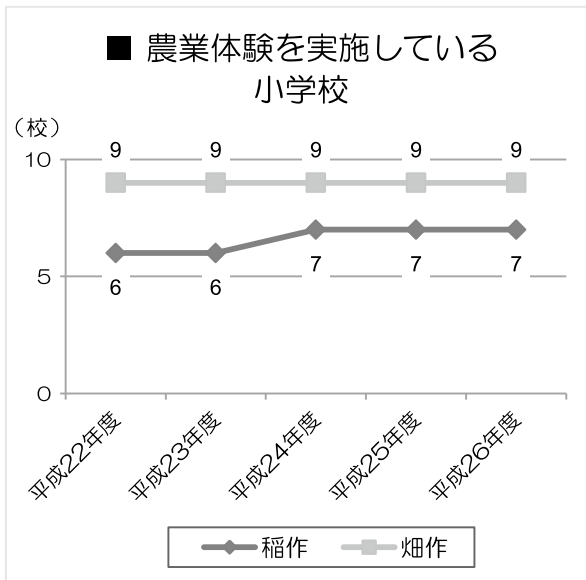
・農林漁業体験について



「畑作体験」が32.1%で最も多く、次いで「稲作体験」（24.8%）となっています。いずれかの体験をした人は41.1%となっています。

食育の関心別でみると、「関心がある」（27.8%）「どちらかといえば関心がある」（49.1%）「関心がない」（5.9%）でいずれの経験がある人がいずれの経験もない人より高い結果となっています。

・農業体験（稲作）を実施している小学校



資料：学校教育課 実績

稲作の農業体験を実施している小学校は、計画策定当初から1校増え、7校になりました。

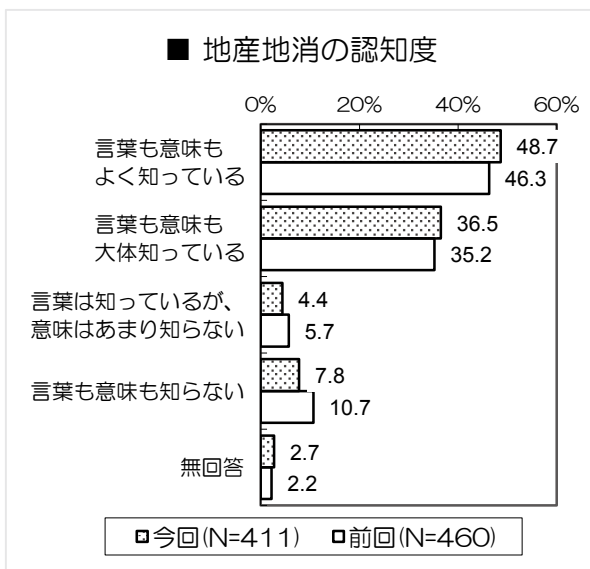
また、畑作の農業体験は、市内全小学校（9校）で実施しています。

エ 安全・安心の食を選択する

① 地産地消※を推進する

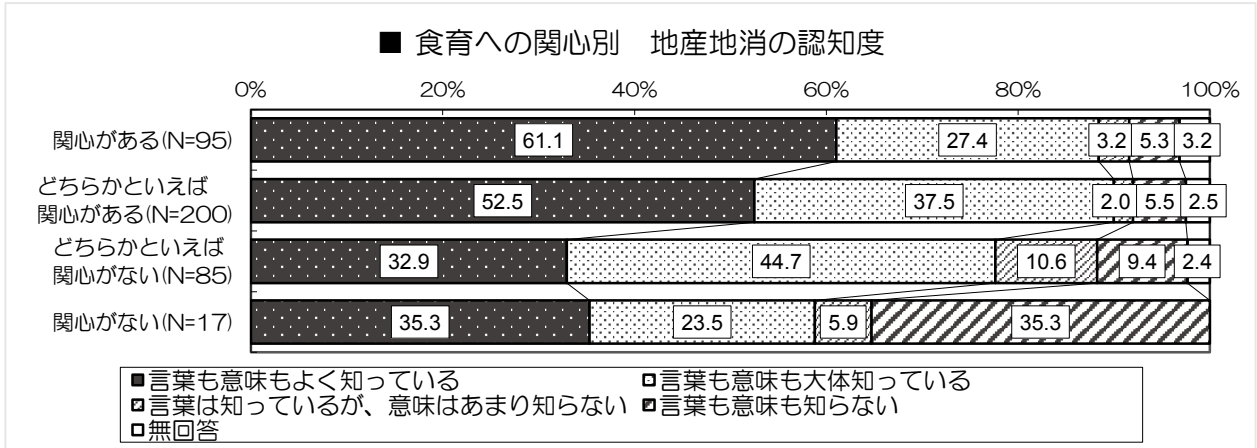
（後継者の育成・環境に配慮した食物づくりを含む）

・地産地消について

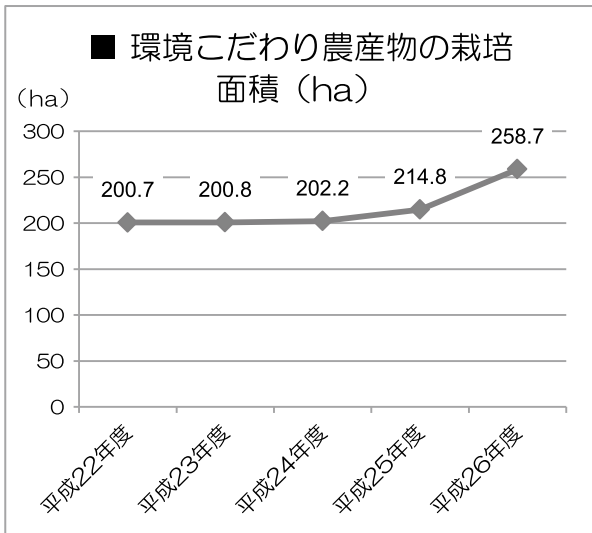


地産地消の認知度をみると、「言葉も意味もよく知っている」が48.7%で最も多く、次いで「言葉も意味も大体知っている」（36.5%）となっており、意味を知っている人は合計85.2%と、前回（81.5%）より3.7ポイントの増加で8割を超えています。

食育の関心別でみると、関心が高い人の方が、関心がない人よりも認知度が高くなっています。



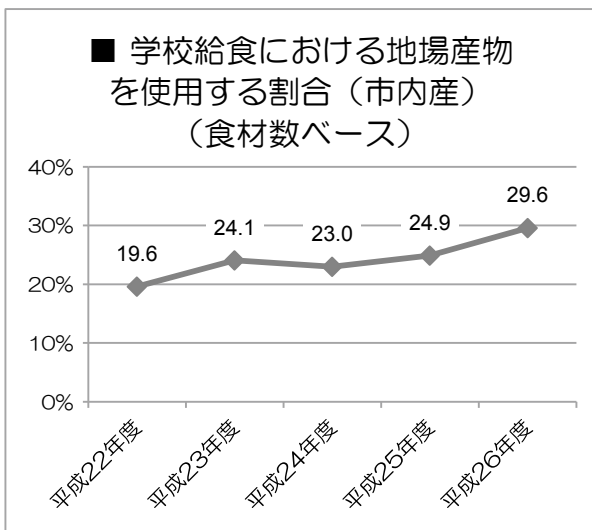
・環境こだわり農産物*について



資料：環境こだわり農産物 認証面積

環境こだわり農産物の栽培面積は、計画策定時は 200.7ha ですが、年々増加し、平成 26 年度には、58.0ha 増加し、258.7ha となっています。

・学校給食の食材について



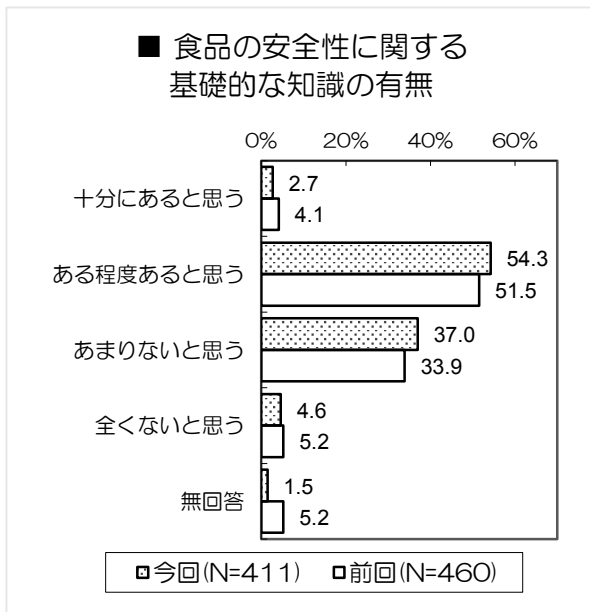
資料：学校給食における地場産物活用率 (野菜・みそ・米の合計)

学校給食における地場産物 (市内産) を使用する割合は、計画策定時は 19.6% ですが、年々増加し、平成 26 年度には、10.0 ポイント増加し、29.6% となっています。

② 安全な食を選択する

(新鮮な食材・旬の食材を選択する)

- ・食品の安全性に関する基礎的な知識を持っているか



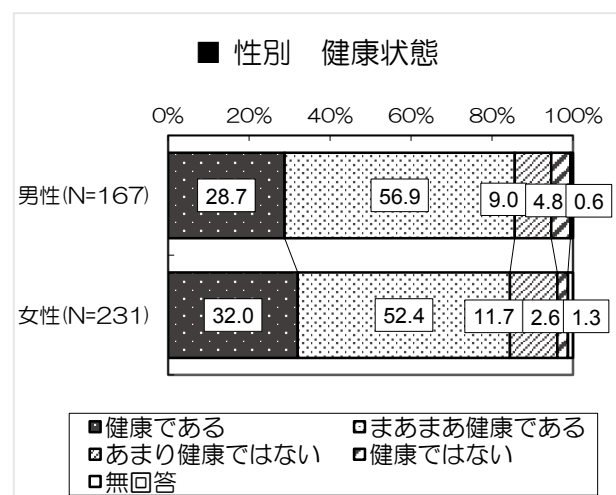
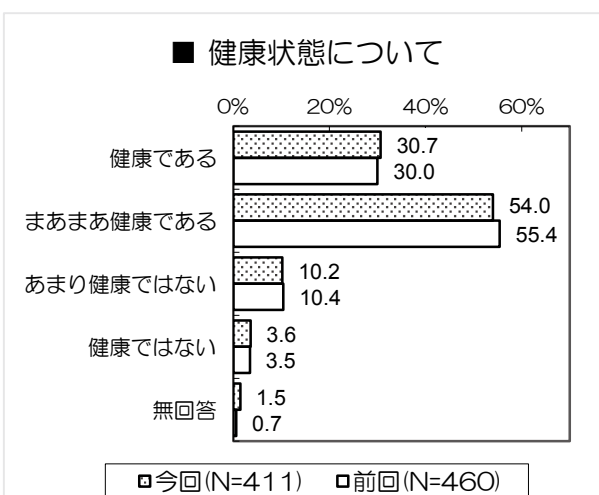
食品の安全性に関する知識をみると、「ある程度あると思う」が54.3%で最も多く、次いで「あまりないと思う」(37.0%)となっています。あると思う人(「十分にあると思う」と「ある程度あると思う」の合計)は57.0%で、前回(55.6%)とほぼ同程度となっています。

- ・外食・中食の際に留意する点 →P16 参照
- ・食品や食材を選ぶ時の基準について →P16 参照

(3) その他の現状

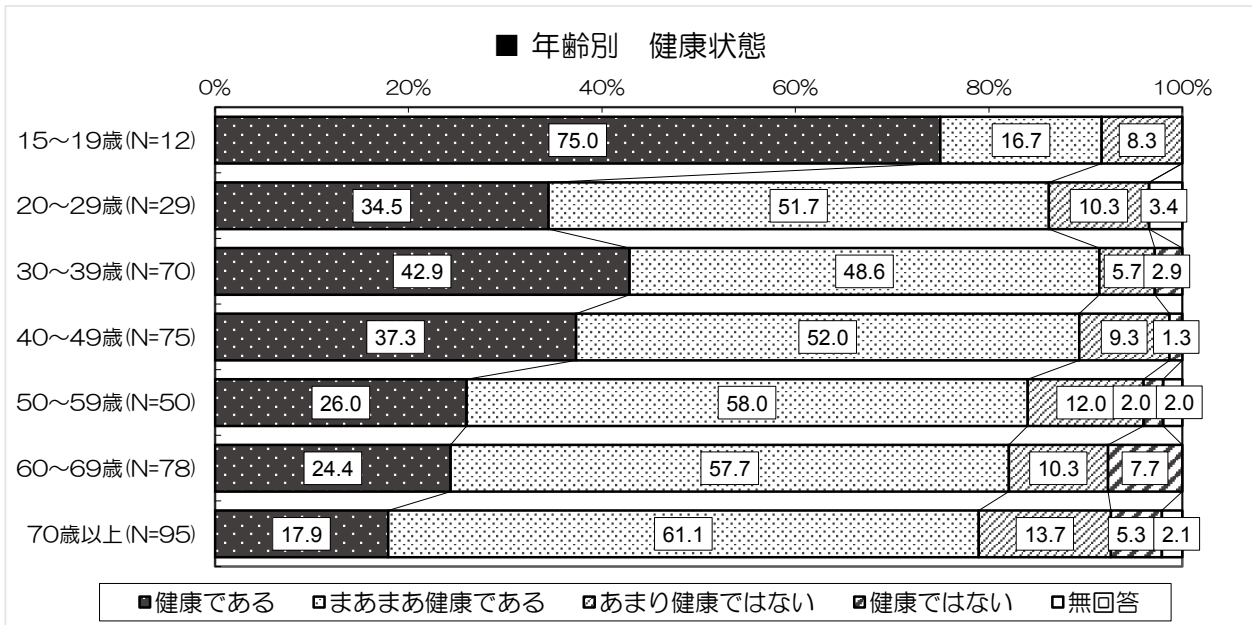
ア 食育と健康に関する現状

① 健康状態について



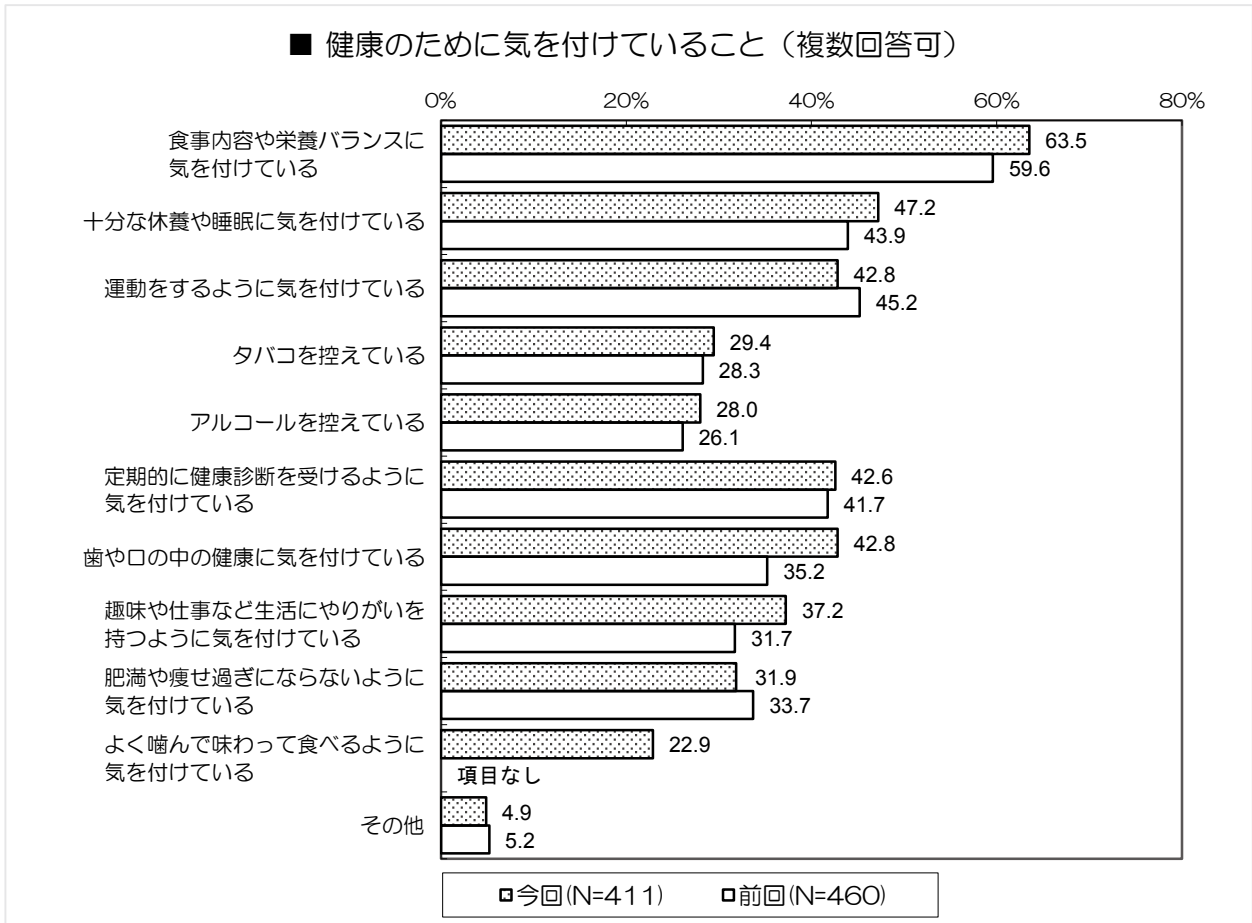
「まあまあ健康である」が54.0%で最も多く、次いで「健康である」(30.7%)となっています。「健康である」と「まあまあ健康である」の合計は84.7%で、前回(85.4%)とほぼ同程度となっています。

性別にみると、男女で特に大きな差はみられません。



年齢別にみると、年代が高くなるにつれ、健康ではないと感じている人（「健康ではない」と「あまり健康ではない」の合計）の割合が高くなる傾向にあり、70歳以上で約2割となっています。

② 健康のために気を付けていること



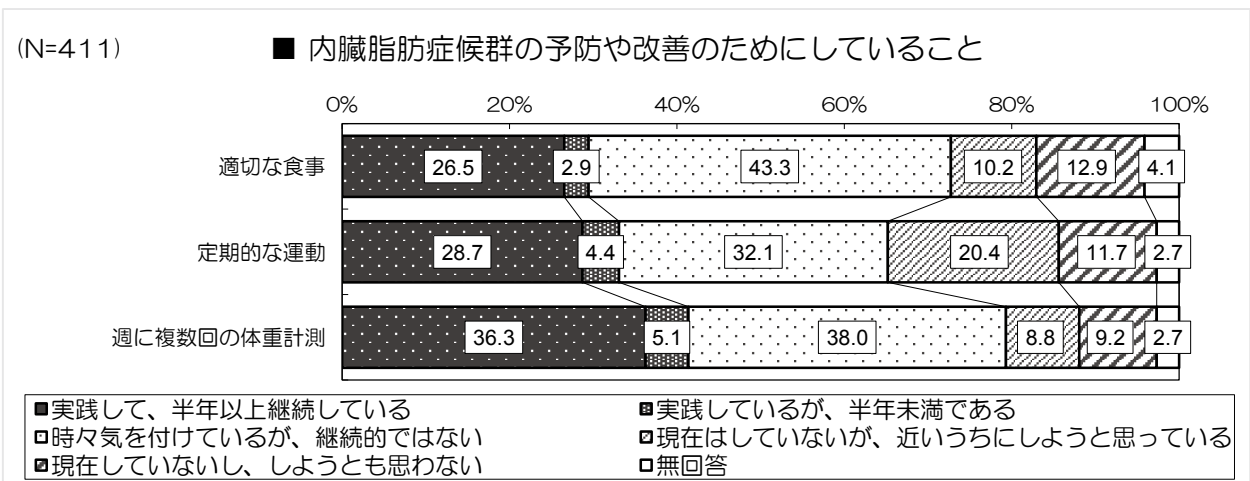
	有効回答数	食事内容や栄養バランスに気を付けている	十分な休養や睡眠に気を付けている	運動をするように気を付けている	タバコを控えている	アルコールを控えている	定期的に健康診断を受けるように気を付けている	歯や口の中の健康に気を付けている	趣味や仕事など生活にやりがいをもつように気を付けている	肥満ややせすぎにならないように気を付けている	よく噛んで味わって食べるように気を付けている	その他	
健康状態	健康である	126	73.0%	54.0%	46.8%	33.3%	27.0%	38.1%	43.7%	39.7%	36.5%	22.2%	4.8%
	まあまあ健康である	222	62.6%	45.5%	44.6%	27.9%	30.2%	45.5%	42.3%	36.5%	31.1%	23.9%	4.5%
	あまり健康ではない	42	52.4%	52.4%	33.3%	26.2%	21.4%	47.6%	54.8%	42.9%	31.0%	21.4%	4.8%
	健康ではない	15	46.7%	13.3%	20.0%	26.7%	20.0%	26.7%	13.3%	20.0%	6.7%	20.0%	6.7%

「食事内容や栄養バランスに気を付けている」が63.5%で最も多く、次いで「十分な休養や睡眠に気を付けている」（47.2%）、「運動をするように気を付けている」「歯や口の中の健康に気を付けている」（ともに42.8%）などとなっています。

前回と比較すると、「歯や口の中の健康に気を付けている」（7.6ポイント増）、「趣味や仕事など生活にやりがいをもつように気を付けている」（5.5ポイント増）などの項目が前回より増加しています。

健康状態別にみると、「食事内容や栄養バランスに気を付けている」「運動するように気を付けている」「タバコを控えている」などは健康な人ほど多くなっています。また、「定期的に健康診断を受けるように気を付けている」や「歯や口の中の健康に気を付けている」などは「あまり健康ではない」人で最も多くなっており、健康に不安が出てくると気を付けるようになる項目であると考えられます。

③ 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）※の予防や改善のために実践していること

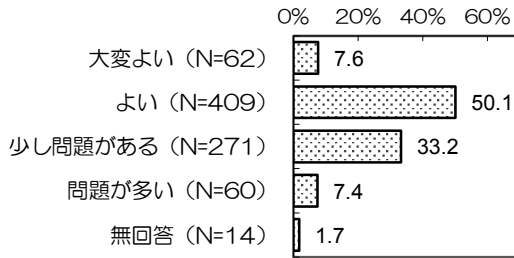


実践している人（「実践して、半年以上継続している」と「実践しているが、半年未満である」の合計）が最も多いのは「週に複数回の体重計測」（41.4%）で、次いで「定期的な運動」（33.1%）、「適切な食事」（29.4%）となっています。

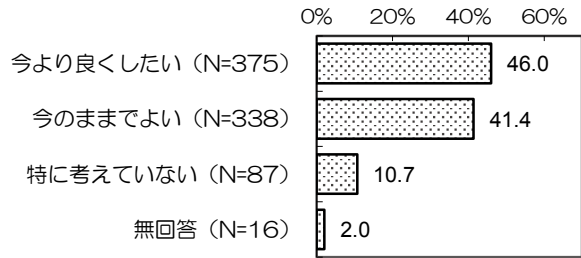
また、実践していない人（「現在ではしていないが、近いうちにしようと思っている」と「現在していないし、しようとも思わない」の合計）が最も多いのは「定期的な運動」（32.1%）となっています。

「適切な食事」「定期的な運動」「週に複数回の体重計測」のいずれかを継続的に実践している人は52.3%となっています。

■ 自分の今の食生活について
どう思うか

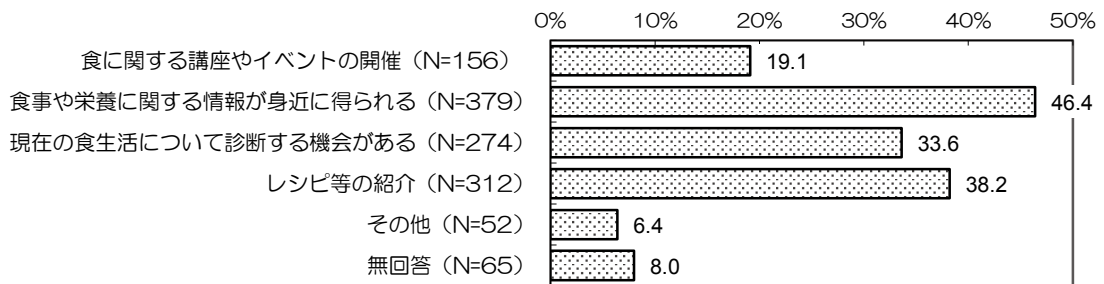


■ 自分の今の食生活について、
今後どのようにしたいか



資料：守山市すこやかまちづくり行動プランに関する市民アンケート調査（平成 27 年度）

■ 食生活を改善するきっかけとして、どのようなことが
充実したらよいと思うか



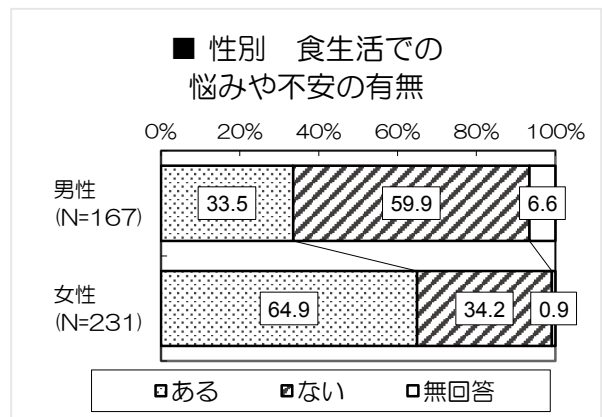
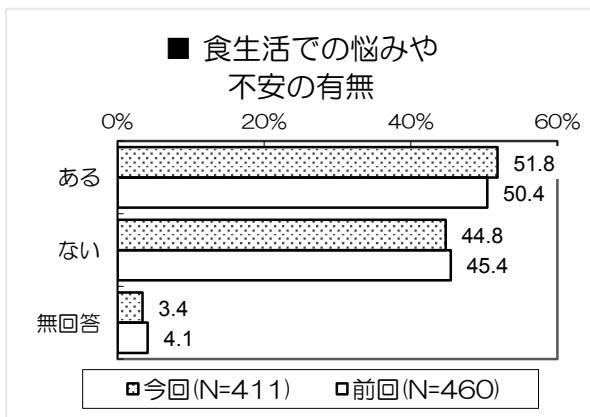
資料：守山市すこやかまちづくり行動プランに関する市民アンケート調査（平成 27 年度）

今の食生活をどのように思うかをみると、「よい」が約半数（50.1%）を占めるものの、「少し問題がある」が 33.2%と次いで高くなっており、「問題が多い」（7.4%）を合わせると、『食生活に問題がある』という人が約 4 割（40.6%）みられます。

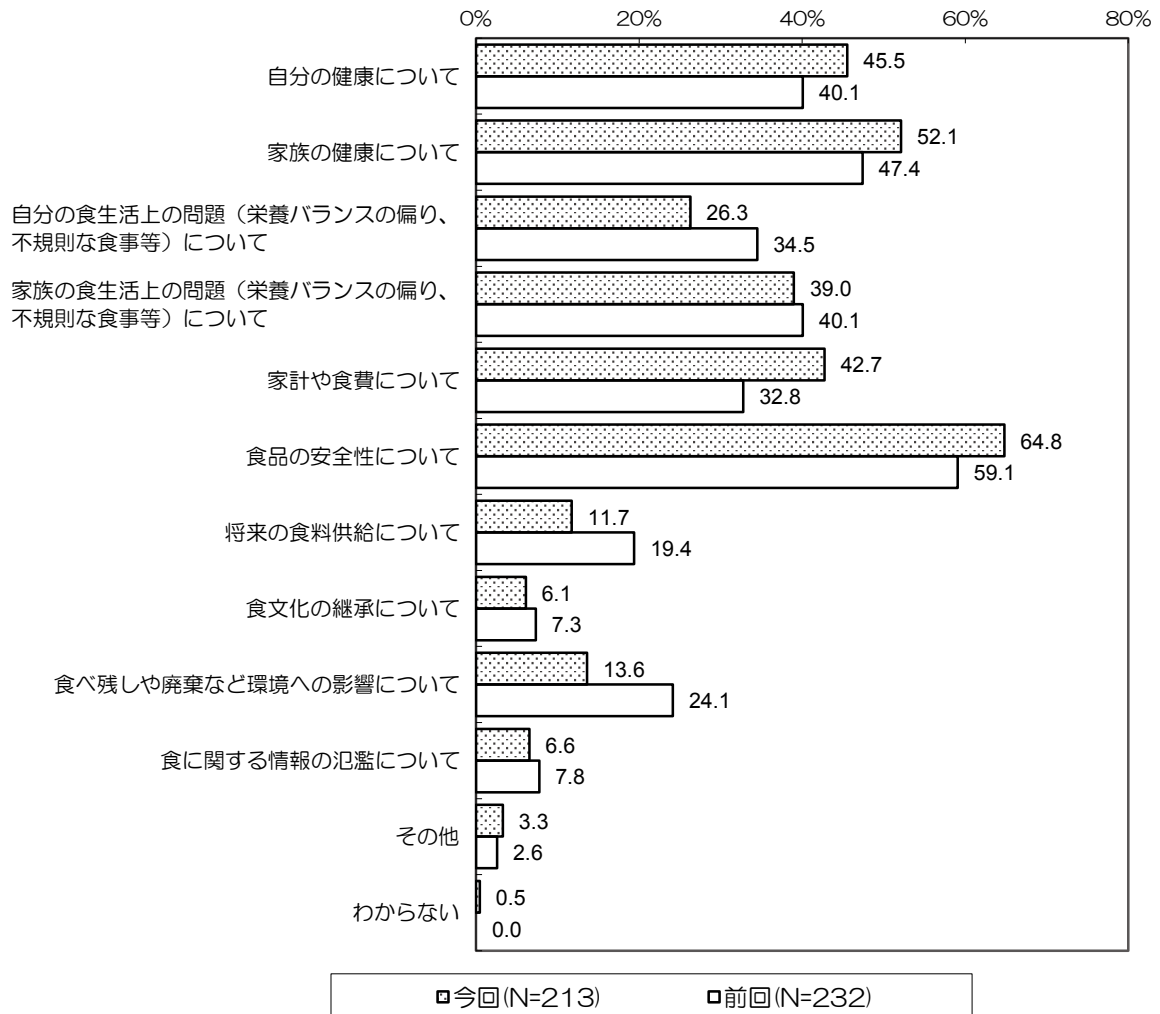
食生活について、今後「今より良くしたい」と思っている人は、全体の 4 割以上（46.0%）となっています。

食生活を改善するきっかけとして、どのようなことが充実したらよいと思うかたずねたところ、「食事や栄養に関する情報が身近に得られる」が 4 割台（46.4%）と最も高く、次いで「レシピ等の紹介」が 38.2%、「現在の食生活について診断する機会がある」が 33.6%となっています。

イ 食生活での悩みや不安について



■ 食生活での悩みや不安の内容（複数回答可）



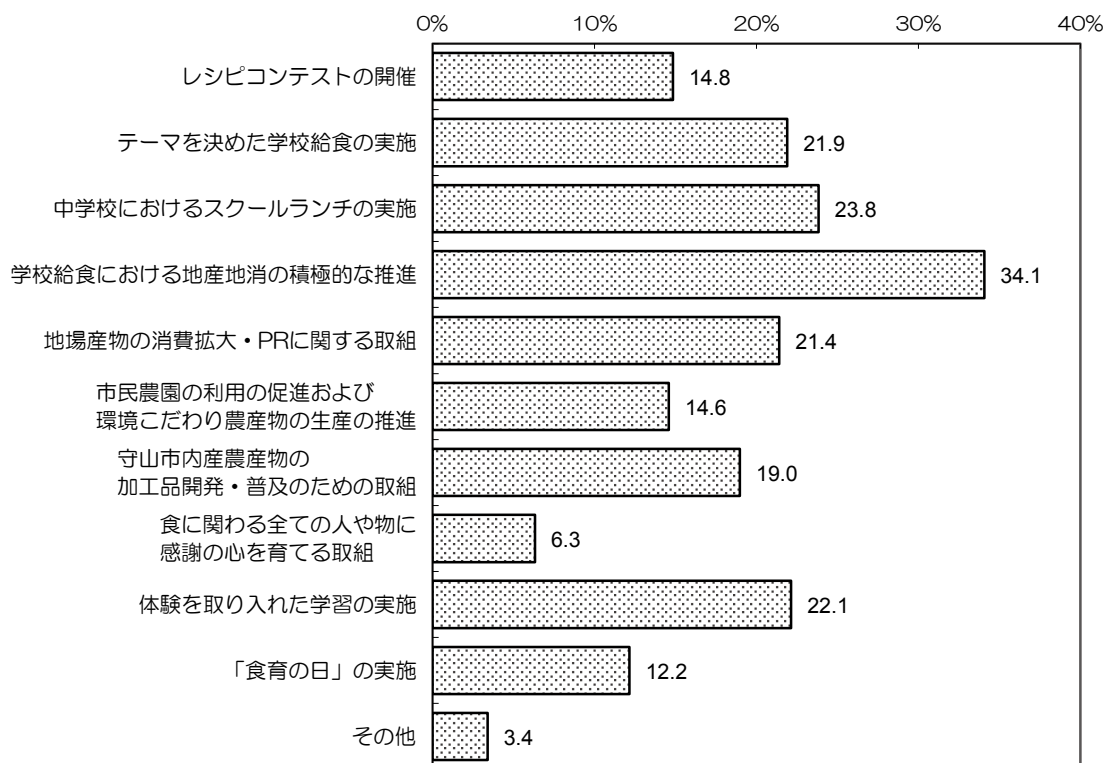
食生活での悩みや不安をみると、「ある」が51.8%で、「ない」（44.8%）を上回っています。「ある」は前回（50.4%）よりわずかながら増加しています。性別にみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。悩みや不安を感じている点をみると、「食品の安全性について」が64.8%で最も多く、次いで「家族の健康について」（52.1%）、「自分の健康について」（45.5%）などとなっています。

ウ 市の食育推進について

① 守山市の食育推進の取組の認知について

(N=411)

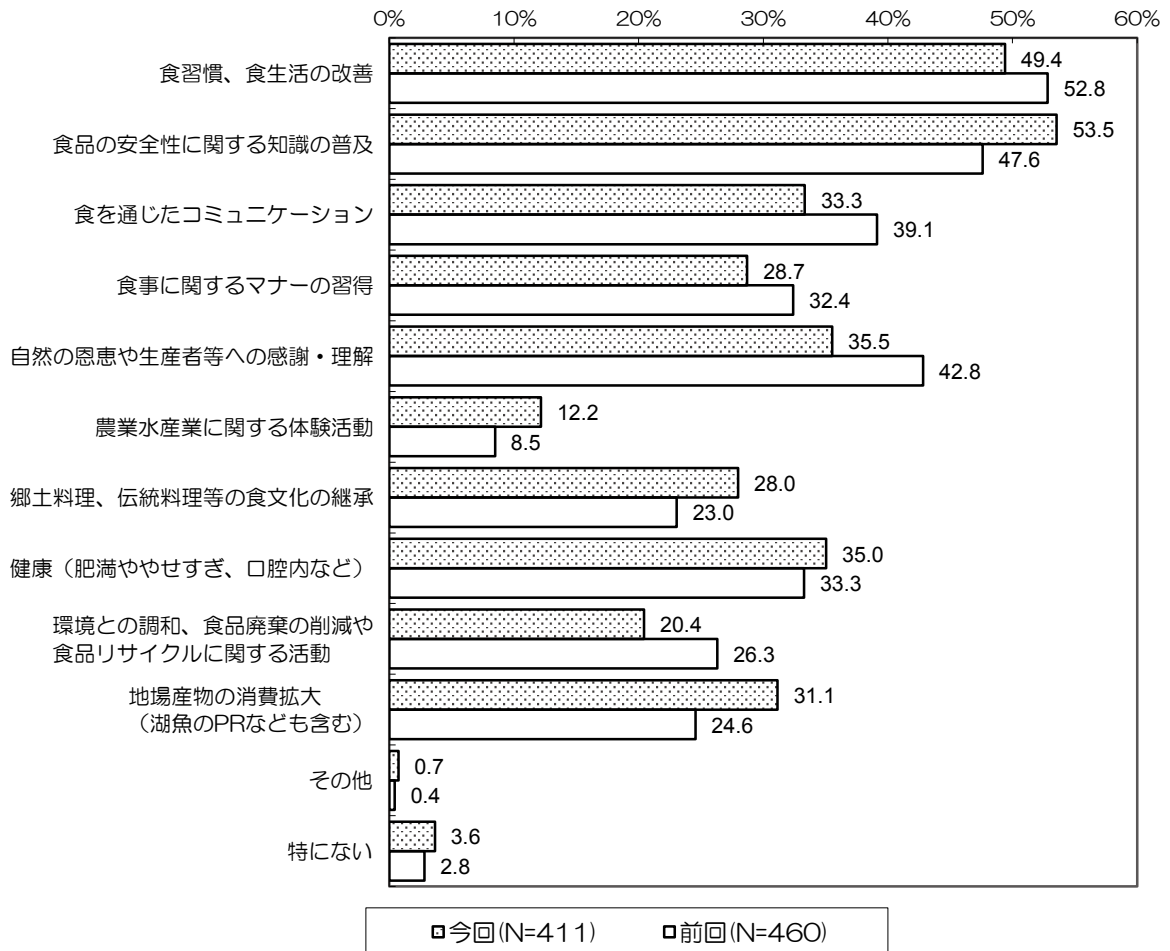
■ 守山市の食育推進の取組で知っているもの（複数回答可）



守山市の食育推進の取組の認知度をみると、「学校給食における地産地消の積極的な推進」が34.1%で最も多く、次いで「中学校におけるスクールランチの実施」(23.8%)、「体験を取り入れた学習の実施」(22.1%)などとなっています。

② 今後、重点的に取り組んだらよいと思う分野について

■ 今後、重点的に取り組んだらよいと思う食育の分野（複数回答可）



重点的に取り組むべき食育の分野をみると、「食品の安全性に関する知識の普及」が53.5%で最も多く、次いで「食習慣、食生活の改善」（49.4%）、「自然の恩恵や生産者等への感謝・理解」（35.5%）などとなっています。前回と比較すると「地場産物の消費拡大（湖魚のPRなども含む）」（6.5ポイント増）、「食品の安全性に関する知識の普及」（5.9ポイント増）などが増加している一方、前回最も多かった「食習慣、食生活の改善」は3.4ポイントの減少となっています。

3 市・県・国の食育推進計画にあげられた項目についての市の現状と評価

(1) 市目標数値の達成状況について

全体的に計画策定時よりも改善傾向ではあるものの、多くの項目で目標値を達成できておらず、改善の幅は小さいです。

目標値を達成した項目は2つ、目標値の達成まではいかなかったが計画策定時より改善した項目は6項目、変化のみられなかった項目は2項目、サンプル数が少なく評価ができないものが5項目でした。

項目	策定当初 (H22)	平成 26 年度	目標値	達成度
1 食育に関心を持っている市民の割合(%) ^{*1}	68.2	71.8	90.0以上	B
2 朝食を欠食する市民の割合(%)				
小学5年生 ^{*2}	3.0	2.3	0.0	C
中学2年生 ^{*2}	7.0	5.0	3.0	B
男性(20歳～29歳) ^{*1}	27.8 (データ少)	23.1 (データ少)	15.0	—
男性(30歳～39歳) ^{*1}	16.7 (データ少)	— (データ少)	10.0	—
女性(20歳～29歳) ^{*1}	— (データ少)	18.8 (データ少)	10.0	—
女性(30歳～39歳) ^{*1}	5.6	3.7	2.0	B
3 肥満者(BMI 25.0以上)の割合(%)				
男性(20歳～69歳) ^{*3}	24.0	24.7	12.0	C
女性(40歳～69歳) ^{*4}	18.8	15.7	10.0	B
4 やせ(BMI 18.5未満)の割合(%)				
女性(15歳～19歳) ^{*5}	— (データ少)	— (データ少)	10.0	—
女性(20歳～29歳) ^{*5}	18.6 (データ少)	28.6 (データ少)	10.0	—
5 学校給食における地場産物を使用する割合 (市内産)(食材数ベース)(%) ^{*6}	19.6	29.6	25.0	A
6 環境こだわり農産物の栽培面積 ^{*7}	200.7ha	258.7ha	250.0ha	A
7 農業体験(稲作)を実施している小学校 ^{*8}	6校	7校	全校 (9校)	B
8 食品の安全性に関する基本的な知識を持っている市民の割合(%) ^{*1}	55.6	57.0	80.0	B

達成度 A : 目標値を達成

B : 目標値の達成までではないが、改善傾向

C : 現状維持(±1.0%)

D : 悪化傾向

— : サンプル数が少なく、判断不能

* 1 : 守山市食育推進に関する市民アンケート

* 2 : 朝食に関する状況調査(平成26年度2月調査)

* 3 : * 4 および * 5

* 4 : 平成26年度守山市特定健康診査※

* 5 : 平成26年度守山市39歳以下健康診査

* 6 : 平成26年度学校給食における地場産物活用率

* 7 : 環境こだわり農産物 認証面積

* 8 : 学校教育課 実績

(2) 国・県食育推進計画にあげられた目標数値との比較

ア 市目標数値と同項目について

項目	市			県		国	
	策定当初 (H22)	現在 (H26)	最終目標 (H27)	現状値 (H21)	目標値 (H29)	現状値 (H26)	目標値 (H27)
1 食育に関心を持っている市民の割合(%)	68.2	71.8	90.0以上	64.4	90.0以上	68.7	90.0以上
2 朝食を欠食する市民の割合(%)							
小学5年生	3.0	2.3	0.0	2.4 (H23)	1.0	子ども 1.5 (H22)	子ども 0.0
中学2年生	7.0	5.0	3.0	6.0 (H23)	3.0		
男性(20歳～29歳)	27.8 (データ少)	23.1 (データ少)	15.0	25.9	15.0	20～30歳代 男性 28.2 (H25)	20～30歳代 男性 15.0 以下
男性(30歳～39歳)	16.7 (データ少)	— (データ少)	10.0	20.2	15.0		
女性(20歳～29歳)	— (データ少)	18.8 (データ少)	10.0	—	—	—	—
女性(30歳～39歳)	5.6	3.7	2.0	—	—	—	—
3 肥満者(BMI 25.0以上)の割合(%)							
男性(20歳～69歳)	24.0	24.7	12.0	25.1	22.0	—	—
女性(40歳～69歳)	18.8	15.7	10.0	—	—	—	—
4 やせ(BMI 18.5未満)の割合(%)							
女性(15歳～19歳)	— (データ少)	— (データ少)	10.0	30.6	15.0	—	—
女性(20歳～29歳)	— (データ少)	— (データ少)	10.0	24.6	15.0	—	—
5 学校給食における地場産物を使用する割合(市内産)(食材数ベース)(%)	19.6	29.6	25.0	24.9 (県内産、 食材数ベ ース)	28.0 (県内産、 食材数ベ ース)	25.8 (県内産、 カロリーベ ース) (H25)	30.0 以上 (県内産、 カロリーベ ース)
6 環境こだわり農産物の栽培面積	200.7ha	258.7ha	250.0ha	14,455ha (H23)	18,000ha (H27)	—	—
7 農業体験(稲作)を実施している小学校	6校	7校	全校 (9校)	—	—	—	—
8 食品の安全性に関する基本的な知識を持っている市民の割合(%)	55.6	57.0	80.0	—	—	70.1	90.0以上

イ 市目標数値にない項目について

市にはない国・県の目標値として、共食^{*}やメタボリックシンドローム、食事の栄養バランスへの配慮、よく噛んで味わって食べることへの関心等といった項目が挙げられています。これらの項目は、食育や正しい食習慣の推進において重要な視点であるため、市においても配慮する必要があります。

項目		市		県		国		
		平成 21 年度	平成 26 年度	現状値 (H21)	目標値 (H29)	現状値 (H26)	目標値 (H27)	
共食について	【国】	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数(朝食+夕食の週平均)の増加	—	—	—	—	週 10.0 回 週 10 回以上	
	【県】	一人で食事をする人の割合の減少(%)	—	—	—	—	—	
		朝食 12～14 歳	—	—	14.0	減少	—	—
		朝食 15～19 歳	—	16.7 (データ少)	29.2		—	—
		夕食 12～14 歳	—	—	0.7		—	—
夕食 15～19 歳	—	8.3 (データ少)	2.8	—	—			
地産地消	【国】	学校給食における国産食材を使用する割合(%)	—	—	—	—	77.0 (国内産) (H25) 80.0 以上 (国内産)	
栄養バランスのとれた食事について	【国】	栄養バランス等に配慮した食生活を送っている国民の割合の増加(%)	—	23.4	—	—	52.7 60.0 以上	
	【県】	バランスのとれた食事に気をつけている人の割合の増加(%)	—	—	—	—	—	
		男性(20 歳代)	51.1	38.5	19.5	30.0	—	—
		女性(20 歳代)	(男女計)	37.5	34.4	55.0	—	—
		男性(30 歳代)	61.3	20.0	26.3	35.0	—	—
		女性(30 歳代)	(男女計)	83.3	57.3	65.0	—	—
		男性(40 歳代)	49.2	42.3	32.2	45.0	—	—
女性(40 歳代)	(男女計)	77.6	65.4	70.0	—	—		
予防・改善について	【国】	内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している国民の割合の増加(%)	—	52.3	—	—	42.1 50% 以上	

項目		市		県		国	
		平成 21 年度	平成 26 年度	現状値 (H21)	目標値 (H29)	現状値 (H26)	目標値 (H27)
よく噛んで味わって食 べることに ついて	【国】	—	22.9	—	—	71.6	80.0 以上
	【県】			53.9 (H24 参考値)	65.0	—	—
に生 産体 験	【国】	—	41.1	—	—	33	90.0 以上
食育 ボラン ティア	【国】・ 【県】	120	181	3,341 (H23)	3,700	33.9万 (H25)	37万 以上

4 前計画をふりかえって

(1) 計画の推進体制

計画の推進体制としては、平成 23 年度から平成 24 年度まで「守山市食育推進委員会」ならびに庁内会議を設置し、計画の進捗管理を行うとともに、レシピコンテストなどの食育推進事業を実施しました。

平成 25 年度からは、「守山市食育推進計画」に加えて「第 2 次健康もりやま 21」「第 2 期守山市国民健康保険特定健康診査等実施計画」などの各計画に基づく健康づくりを一体的に推進するため、「守山市健康づくり推進協議会」を設置するとともに、庁内関係各課が連携しながら、組織横断的に検討・推進を図るため庁内会議を設置し、市民・地域とともに健康づくりを推進しました。

(2) 各種機関・団体による食育の取組

食育に関係する機関や団体は、それぞれの特性を生かし、それぞれの立場で計画の推進を図ってきました。

平成 27 年 6 月、各機関や団体に対し取組内容および市民の食育推進についての改善点や問題点について調査を実施しました。

ここでは、その中から主な取組を紹介します。

(順不同)

●**守山野洲医師会**では、会員に医師会学術集会で、糖尿病教室での食事療法や CKD[※]テーマでの慢性腎臓病の食事療法について、薬物療法とあわせ、体重の管理について学修してもらっています。また、当会主催の市民教育講座でも同様に、糖尿病、CKD テーマで市民の皆さんに、食事と体重管理について講演しています。

●**草津栗東守山野洲歯科医師会**では、生涯にわたって健康でかつ楽しい食生活を送れるよう、授乳期から食の大切さ、食べることができる喜びを伝えています。学校歯科保健、「かむカムフェスタ」・「歯ートフル淡海」等イベント、「歯の衛生週間」・「いい歯の日」の啓発期間を活用し歯を守ることの重要性について活動を行っています。

●**滋賀県栄養士会**では、健康増進および食生活改善に関する知識の普及啓発や地産地消、郷土食の伝承などを目的とした食品量販店での食育啓発イベントやお弁当コンテスト、地域での親子料理教室をはじめとした「食」に関する事業に広く取り組んでいます。

●**守山市健康推進員連絡協議会**では、「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、自治会や学区といった地域での食育・健康づくりを推進しています。また、「たべるの大すきプロジェクト」「地域大すきプロジェクト」を立ち上げ、料理教室・健康講座の開催、サロン（高齢者・子育て）での食事・おやつ・離乳食などの提供、防煙教育、虫歯予防啓発、中学生のお弁当作り教室、街頭での啓発などを行っています。

●**おうみ富士農業協同組合**では、「食べる活動」として食べ比べや調理といった食育イベントを、消費者と生産者を結ぶ「つなげる活動」として農業体験型交流事業を行っています。

●**市内食品店**では、安心・安全・健康に配慮した商品の取扱いの拡大や、地産地消の「地場野菜コーナー」の設置、産地表示の完全実施を行っています。

●**市内企業**では、社員食堂のメニューのすべてにカロリーと塩分量を表示し、社員のメニュー選択に役立てています。

(3) 5年間の市の取組

第5次守山市総合計画を上位計画とし、庁内各関係課が食育やその環境整備について、各個別計画に基づく施策を展開してきました。

4つの基本目標に関する過去5年間の主な取組については以下のとおりです。

【基本目標：食べることの大切さを学ぶ】

●「食育の日」・「食育月間」の取組

市内小・中学校では、毎月19日を「食育の日」と定め、食育に関するさまざまな取組を行っています。また、年4回、「食育だより」を発行し、保護者への啓発に努めています。

すこやか生活課では、「食育の日」・「食育月間」における啓発として、有線放送、駅前電光掲示板、市広報誌や市ホームページなどを活用した啓発を行っています。

●食に関わるすべての人や物に感謝の心を育てる取組

市内小学校では、生産者との交流を通じて、野菜の生産に関わる苦労や喜びを感じたり、生産者や食べ物への感謝の気持ちを持つことを目的に生産者を給食に招待する取組を行っています。

●テーマを決めた学校給食の実施

市内小学校では、学校給食において、季節の行事食のほかに、食物繊維を多く含む食材をふんだんに取り入れた「おなかすっきりの日」や、滋賀の食材や料理を取り入れた「滋賀の日」、全国の名物料理を味わう「全国味めぐりの日」などを設け、子どもたちの体の健やかな成長および豊かな食体験による心の育成について取り組んでいます。

●レシピコンテストの開催

すこやか生活課では、平成24年度より、毎年食育に関するテーマでのレシピコンテストを実施しました。コンテストに入賞したレシピは、レシピカードを作成し、市関係施設や学校、市内スーパーなどで配布しました。

【基本目標：「早寝・早起き・朝ごはん」を実践する】

●食事・食生活の指導・啓発

すこやか生活課では、乳幼児から高齢者まで規則正しい生活リズム・食習慣について、乳幼児健診やすくすく健康相談、特定保健指導^{*}、各種健康相談の際に相談・指導しています。また、健康に暮らすための正しい食生活について、地域への出前講座やもりやま健康フェスティバルといったイベントなどで啓発しています。

●保護者への啓発

保育園・幼稚園・こども園では、子ども達の生活リズムを整える大切さや「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性などをおたよりや講演会等で保護者に啓発しています。また、生活習慣の確立が意欲や学力にもつながることを知らせています。

市内小・中学校では、小2、小5、中2を対象としたアンケートを実施し、結果を食育だよりにて保護者へ配布しています。また、アンケート結果を各校での食育指導に活用しています。

【基本目標：家庭や地域で食文化を語り継ぐ】

●日本食の推進

保育園・こども園では、給食で積極的に日本食を取り入れ、素材そのもののおいしさを生かした栄養バランスの取れた食事を提供しています。

市内小学校では、学校給食において、メニューを一汁二菜とし、日本食を中心に実施し、日本食への親しみを深めるよう努めています。

●郷土料理、伝統料理の推進

保育園・こども園では、郷土料理や行事にちなんだ給食・おやつを提供することで、地域の食文化に触れる機会を積極的に設けています。

市内小学校では、「滋賀の日」「守山の日」「琵琶湖の日」などを設け、滋賀県や守山市に関わりのある献立や地域の食材に触れる機会を作っています。

●体験を取り入れた学習の実施や市民農園利用の促進

市内保育園・こども園・幼稚園・小学校では、園庭やスクール農園での野菜の栽培や、圃場^{ほしやう}での田植え・稲刈り・収穫祭といった食物の生産に関する体験を取り入れた学習を行っています。

農政課では、農地を有効に活用したい農家と家庭菜園をしたい市民の橋渡しを目的に、市民農園登録制度を設けています。

公民館では、旬の農産物を見直す（スローフード）講座や、地域の食材の活用、伝統料理の継承といった内容を取り入れています。

【基本目標：安全・安心の食を選択する】

●給食における地産地消の積極的な推進

保育園・こども園では、安全・安心な給食を提供するため、原則、国内産食材に限定して使用し、さらに地元産食材を積極的に取り入れるよう努めています。

市内小学校では、以前より、学校給食に使用する米を100%市内産としていましたが、平成25年度から、農薬や化学肥料の少ない環境こだわり米(100%市内産)を使用しています。また、学校給食で使用する野菜の市内産限定入札や小規模校で地元で作られた野菜をその校区の小学校で使用するなど、市内産農産物の使用率拡大のための取組を実施しています。

●もりやま食のまちづくりプロジェクトの推進

「地域自給力の向上と健康社会の形成」を目標として『もりやま食のまちづくりプロジェクト』を立ち上げ、新鮮な農産物の地産地消・資源を活用した堆肥による安全安心の野菜栽培・次世代を担う新たな6次産業^{*}化の推進を図るため、「環境保全循環型農業専門部会」「地産地消・食育専門部会」「6次化専門部会」を設置し、産学官農が連携して取組を進めています。

●安全・安心の食を選択するために必要な情報の発信

すこやか生活課では、食中毒に関する情報について、安全安心メールや有線放送、市広報誌、市ホームページなどで発信しています。また、健康推進員養成講座では、安全・安心な調理実習についての講座・実習を行っています。

5 今後の食育推進における課題

(1) 基本目標別の課題

今回のアンケート調査やこれまでの市の取組、国・県の課題などを通じて明らかとなった本市の現状から、次のような課題があると考えられます。

分野	現状と課題	施策項目
全体	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関心のない人は、他の項目についても認知度や実践度が低い。 食育の認知度・関心・実践ともに増加しているが、性別や年齢による偏りが大きい。 高校生～働き盛り層を主な対象とした取組が少ない。 約半数の人が食生活での悩みや不安を抱いている。 世帯規模の縮小により、家庭での教育力が低下している。 衛生上の問題、アレルギーの問題により、学校での体験を通じた学習が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 無関心層（男性、若年層など）への食育の推進 ライフステージ※に対応した啓発や対策による生涯にわたる食育の推進 食に関する情報提供の強化 相談窓口の周知 行政、地域、企業などによる食育の推進
食べることの大切さを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 栄養バランス、野菜の積極的摂取を気にする人は多いが、具体的指標については知識が少ない。 健康のためによく噛んで味わって食べている人が少ない。 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知度に比べ、予防・改善のために継続的な取組をしている人は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に対する健全な食生活に関する情報提供の強化 健全な食生活等を継続して実施できる取組の推進 乳幼児・児童・生徒の栄養の確保と食生活習慣の確立 子どもの健やかな成長と親の健康づくりの支援 生活習慣病※の発症および重症化の予防対策の推進 要介護状態の予防を含む高齢者の健康づくりの推進 障害のある人の食育の推進 歯科疾患予防対策

分野	現状と課題	施策項目
き (つ) づ		<ul style="list-style-type: none"> ・口腔[*]機能の維持・向上対策 ・歯科保健との連携
早寝・早起き・朝ごはんを実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を週の半分以上食べない人が20歳代男女、40～50歳代男性で多い。 ・子どもの朝食欠食は減少してきているが、未だ一定数の欠食がある。 ・朝食の欠食だけでなく、1日3回の規則正しい食事をすることは全ライフステージにおいて大切である。 ・健康な生活リズムの確立は、子どもだけでなく、大人的生活習慣病予防などの面からも重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを含む健全な食生活の定着の推進 ・市民に対する健全な食生活に関する情報提供の強化 ・健全な食生活等を継続して実施できる取組の推進 ・乳幼児・児童・生徒の栄養の確保と食生活習慣の確立 ・学校保健との連携 ・子どもの健やかな成長と親の健康づくりの支援 ・生活習慣病の発症および重症化の予防対策の推進
家庭や地域で食文化を語り継ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい郷土料理、伝統料理があるという人が減少している。 ・核家族化、子どもの塾通いの増加によるお手伝いの時間の減少 ・小学校における農業体験の支援者の高齢化および後継者の不在 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理・伝統料理の伝承の推進 ・子どもの頃から郷土料理・伝承料理に親しむ環境づくり ・親と子、祖父母と孫での調理の推進 ・郷土料理・伝承料理を伝える関係機関・団体の連携 ・農業体験を支援する農業者の発掘
安全・安心の食を選択する	<ul style="list-style-type: none"> ・約4割の人が食品の安全性に関する基礎的な知識を持っていないと感じている。 ・食生活に関する不安では、食品の安全性に関するものが最も高い。 ・食べ残しや食品の廃棄の削減について実践している人が減少している。 ・地域の特産品の生産者における後継者が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した食の推進 ・食に関する情報の提供の強化 ・農業の担い手の育成を含む地産地消の推進 ・持続可能な社会の実現に向けた食育の推進

(2) 今後の方針のまとめ

ア 食育への関心の向上（意識・知識）

食育への関心は、あらゆる食の分野への関心・知識・実践の根幹です。これは、幼少期においては家族との食事や調理、生産体験をともにすることで培われ、成年以降では、自分や家族の食事や健康についての関心とともに高まる傾向がうかがえます。

しかし、これらの体験や状況を有しない若年層や食事の準備や後片付けをしない層、男性において食育への関心が低いことが分かりました。食育の推進のためには、これらの無関心層への対策が必要です。

また、食に関する知識の習得は、その後の望ましい食生活の実践に必要不可欠です。さまざまな情報が氾濫する現代において、情報を自ら取捨選択し、正しい食行動をとることができる能力を養う必要があります。

食に関する経験・体験を積み重ねることで、食育の関心を高め、知識の習得や望ましい食生活の実践をはじめとした食に関するあらゆる行動の改善を図ることが必要です。

イ 生涯を通じた食育の推進（行動・実践）

健康な食生活の実践、家族団らんとしての食事、食文化の伝承、環境に配慮した食品の購入・廃棄、安全・安心の食の選択など食に関する分野は広く、ライフステージによって食の課題や必要な知識は変化していきます。

特に、生活習慣病の予防は、個人および家族の QOL^{*}の維持・向上のためにはもちろんのこと、持続可能な医療制度の実現への影響も大きく、膨大な医療費は社会問題となっています。生活習慣病の予防・改善は、食事の量や時間と密接な関わりがあり、個々の身体や生活の状況に合わせた食生活の実践が大切です。

また、世帯規模の縮小や行事等の縮小により、調理技能や食文化の継承の機会が減少しています。自らが人生を通じて得た知識や技能を次世代へ継承することは、次世代の食事を通じた自己管理能力の形成や食文化の保護といった面から重要です。

普段の生活における食育の実践は、性別・年齢・生活スタイルを問わず、すべての人にとって大切なことであり、生涯を通じて食育を推進していく必要があります。

ウ 食育推進を支援する関係者との連携（環境づくり）

食育の推進は、幅広い対象者に対して、多岐にわたる分野について取り組む必要があります。地産地消や健全な食生活の実現、安全・安心の食の選択、食品ロス^{*}の軽減など既に様々な関係者が取り組んでいるところです。持続可能な社会の実現のために、これらの関係者がそれぞれの特性を生かし、密接に連携・協働することで、食育推進の環境を整え、施策の実効性を高めることが大切です。